

PORTS OF OSAKA PREFECTURE



令和6年他港視察 (株)新来島サノヤス造船(令和6年11月8日)

大阪府の みなと

2025.1 No.139

C·O·N·T·E·N·T·S

TOPICS

| | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|-----|
| 「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」について…………… | 共和海建グループ/C I F E R・コア…………… | 2 |
| 三井化学株式会社大阪工場 カーボンニュートラルへの取り組み …… | 三井化学株式会社大阪工場…………… | 3 |
| 他港視察(香川県高松港・岡山県水島港)を実施しました …… | (一社)大阪府港湾協会…………… | 4~6 |
| 府営港湾の整備、振興に関する要望活動…………… | (一社)大阪府港湾協会…………… | 7・8 |
| 堺泉北港と細島港・宮崎港とのパートナーシップ港提携の覚書を締結しました！… | 大阪港湾局 計画調整部 振興課 利用促進担当…………… | 9 |
| 大阪港湾局泉州港湾海岸部の拠点集約のご案内…………… | 大阪港湾局 総務部 総務課企画調整担当…………… | 10 |
| 大阪府職員等表彰(活躍職員等表彰)の受賞について… | 大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 事業企画・防災課事業企画・防災…………… | 11 |
| 大和ビジネス交流会に出展いたしました…………… | 大阪港湾局 計画調整部 振興課利用促進担当…………… | 11 |

PORT NEWS

| | | |
|--|---|----|
| 高石市×マダガスカル マダガスカルフェア2024…………… | 高石市 総合政策部 まち未来戦略室産業共創課…………… | 12 |
| 堺旧港社会実験「乙姫の休日 in堺旧港2024。」を実施しました…………… | 堺市 建築都市局都心未来創造部 ベイエリア推進担当…………… | 13 |
| 第85回九大港湾管理者港湾運営協議会開催…………… | 大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 施設管理運営課施設管理運営…………… | 14 |
| 巡視船による体験航海を実施しました…………… | 貝塚港湾振興会…………… | 15 |
| 第51回「堺港まつり」を実施しました…………… | 堺港湾振興会…………… | 15 |
| 岸和田港まつりを開催しました！…………… | 岸和田港振興協会(岸和田市 魅力創造部 産業政策課産業振興担当)…………… | 16 |
| 第22回魚庭(なにわ)の海づくり大会を開催しました… | 魚庭の海づくり実行委員会(大阪府/大阪府漁業協同組合連合会/ 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所)…………… | 17 |
| 海のワクワク学校(磯浜見学会)を開催しました… | 大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 施設管理運営課泉南管理担当/ 建設・施設保全課深日担当…………… | 18 |
| 長松海岸美化運動を実施しました…………… | 大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 施設管理運営課泉南管理担当/ 建設・施設保全課深日担当…………… | 18 |
| ビジネス英語セミナー(基礎編)を開催しました！…………… | 堺泉北港湾振興連絡協議会…………… | 19 |
| 堺泉北港湾施設見学会においてRO-RO船の船舶見学会を実施しました…………… | 高石市 総合政策部 まち未来戦略室産業共創課…………… | 19 |
| 令和6年度マレーシアでのポートセールス…………… | 大阪港湾局 計画調整部 振興課利用促進担当…………… | 20 |
| 堺泉北港及び阪南港における『テロ対策総合訓練』について…………… | 大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 事業企画・防災課危機管理担当…………… | 21 |

会員様紹介コーナー

| | | |
|--|----------------------|-------|
| 日立造船からカナデビアへ～技術の力で人類と自然の調和に挑む企業グループへ～…………… | カナデビア株式会社堺工場…………… | 22~25 |
| 堺の海から全国へ『安心』『安全』を運びます…………… | 関西港湾サービス株式会社…………… | 26~28 |
| 日本で最初の長距離フェリー会社です…………… | 阪九フェリー株式会社泉大津支店…………… | 29~32 |

ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、当協会の運営に多大なお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、日本経済はコロナ禍から順調に回復し、訪日客数も3,500万人を超えるなど、関西においても観光を中心に人流が活性化してまいりました。その一方で、我が国の港湾を取り巻く環境は、不安定な国際情勢、燃料油や原材料の高騰、物流分野をはじめとした担い手不足、カーボンニュートラルへの対応など、大変厳しい状況が続いています。

エネルギーの9割以上及び食料の6割を海外に依存する我が国においては、製品の輸出や食料・資源の輸入などの貿易が、経済活動を支えており、この輸出入貨物量のほぼ全てが港湾を通じて行われています。厳しい経営環境の中、国民生活を支えるため、製造や物流、エネルギー供給など港湾に関わる様々な分野の業務に日々ご尽力いただいております会員の皆様に深く感謝申し上げます。

今年の干支は乙巳(きのと・み)です。この年は、努力を重ねて物事を安定させるとともに成長と変革の年とされています。世界に目を向けましても、多くの国や地域でリーダーの顔ぶれが変わり、大きな変化を迎えようとしております。我が国においても新政権のもと、未来を見据えた国のグランドデザインを描く重要な局面を迎えています。

このような中、本年4月には「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの下、大阪・関西万博がいよいよ開幕いたします。万博には、人・モノを呼び寄せる求心力と発信力があり、新しい技術や商品が生まれ、生活が便利になる「きっかけ」となります。例えば、海上の「動くパビリオン」として水素燃料電池を使用した旅客船の運航が計画されていますが、大阪・関西万博を契機に色々な分野で技術革新がより一層進展するとともに大阪ベイエリアの更なる活性化につながることを期待いたしております。

当協会といたしましても、これまでの歩みを緩めることなく、大阪港湾局や沿岸市町そして会員の皆様と手を携え、府営港湾がより使い勝手の良い港となり、少しでも皆様のお役に立つことができるよう努めてまいりますので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに皆様の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

(一社)大阪府港湾協会会長 竹内 廣行



「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」について

共和海建グループ／CIFER・コア

共和海建グループは、創業以来「海と環境を守る港湾開発」という理念の元、地域企業として漁業者をはじめ、海にかかわる企業や行政と協調しつつ、海上工事にかかわってまいりました。そのような中、昨今のSDGsに関する社会の機運の高まりと同調し、社員教育のみならず地元の環境教育や再生活動にまで発展させることが出来ないかと考え、CIFER・コアと協力し「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」を、令和4年5月よりこれまで10回実施してきました。

令和6年度は、「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」を10月27日（日）に行いました。干潟へは普段一般の立入りが禁止の為、干潟への移動は、岸和田みなとマルシェより、船舶に乗船し、往復移動を行いました。

活動内容として、人工干潟には自然の砂の供給がない為、参加者様の協力の元、干潟に海砂を補給・投入を行い、干潟の保全及び、維持管理を行いました。その後、参加者様達と共に、干潟内に生息する生物の観測を行い、生物の生息状況の調査・把握・勉強会を行いました。観察できた生物の中には、甲殻類、タイワンガザミ、ハクセンシオマネキ、コブヨコバサミ、貝類、アサリ、クチバガイ、魚類、カタボシイワシ、クサフグ、ニジギンボ、等が含まれていました。

また、干潟周辺護岸においては、共和海建グループにおける、護岸に漂着するゴミの清掃活動をコアジサシの生息に注意しながら行い、海洋生物や、鳥類への環境保全活動を行いました。

活動後に、岸和田みなとマルシェにおいて、BBQを行い、参加者様とは、活動に参加することにより、学んだ事・感じた事・感想等の意見交換を行い、親睦を深めました。BBQでは、“大阪もん泉州かき”を提供していただき、地産地消への意思の向上にも貢献できたかと、思います。

今後とも、これらの活動を基に、海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で、海と環境を守る地域企業として、貢献していきたいと、考えております。



共和海建グループ



CIFER・コア



干潟近くの上陸桟橋にて



干潟への海砂の補給・投入



清掃活動



生物観測会



生物観測会



親睦会

三井化学株式会社大阪工場 カーボンニュートラルへの取り組み

三井化学株式会社大阪工場

三井化学グループは、持続可能な社会を構築するために、化学企業として果たすべき役割があると考え、2020年11月に2050年カーボンニュートラル宣言を行いました。当社グループのGHG排出量（Scope1+2）と、当社グループが提供する製品のライフサイクル全体を通じたGHG削減貢献量の最大化を両輪としたカーボンニュートラル戦略を策定し、社会変革に寄与すべく具体策を実行しています。

その一環として、当大阪工場においてもカーボンニュートラルに向けた取り組みを行っております。

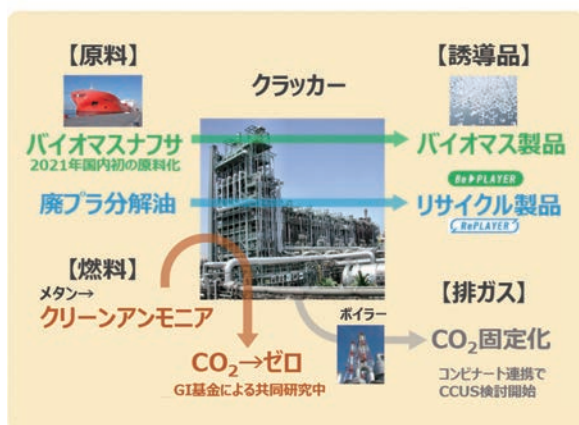
○ナフサクラッカーの燃料転換

ナフサクラッカーは、化学企業の要であると同時に多くのGHGを排出する設備です。現状メタンを主成分とするナフサクラッカーの燃料を、炭素を保有しないアンモニアに転換することで、燃焼時に発生するCO₂を限りなくゼロに近づけることを目指しております。具体的には当社が幹事会社となり、丸善石油化学（株）、東洋エンジニアリング（株）、双日マシナリー（株）と協働し、当大阪工場においてアンモニア専焼炉の実証実験を推進しています。研究開発期間は2021年度から2030年度までの10年間を想定し、2030年の実証完了を目指しております。現在、2026年を目標とするアンモニアバーナおよび試験炉の開発に向け、計画通りに進捗しており、2024年下期に試験炉の建設を開始しました。

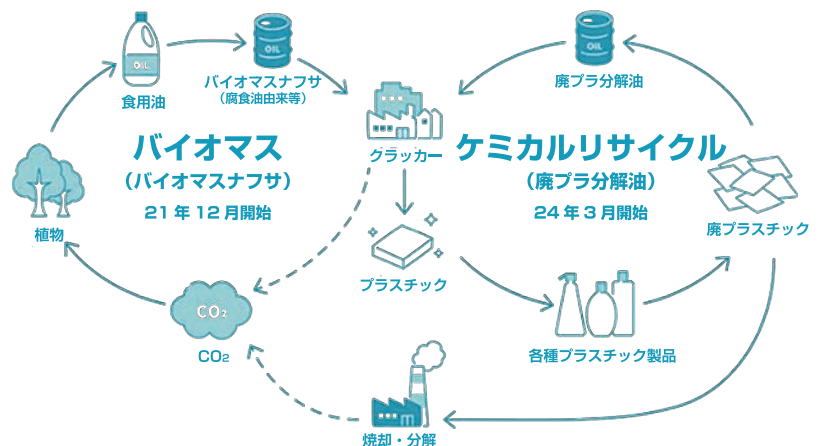
○ナフサクラッカーの原料転換（日本初のバイオ&サーキュラークラッカーを実現）

二酸化炭素を吸収し成長した植物由来のバイオマス原料や廃プラスチックを原料とした分解油（以下廃プラ分解油）への転換は、新たな化石資源の使用を抑制すると同時に資源循環を促進することから、サーキュラーエコノミーの実現に貢献します。2021年12月に、調達したバイオマスナフサを当工場のナフサクラッカーに投入し、マスバランス方式によって、原料使用分を特定の製品に割り当てることで、フェノールやアセトンといったバイオマス化学品、並びにバイオマスポリプロピレンの製造を開始しました。現在、20ものバイオマス化学製品を製造しております。また、2024年3月には廃プラ分解油を調達し、当工場のナフサクラッカーに原料として投入し、国内初となるマスバランス方式によるケミカルリサイクル由来の化学品・プラスチックの製造を開始しました。これら、バイオマス由来、ケミカルリサイクル由来の製品を通じ、社会のGHG排出量削減への貢献を目指しております。

今後も持続可能な社会の実現のために当工場は取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜れますと幸いです。



〈カーボンニュートラル構想イメージ図〉



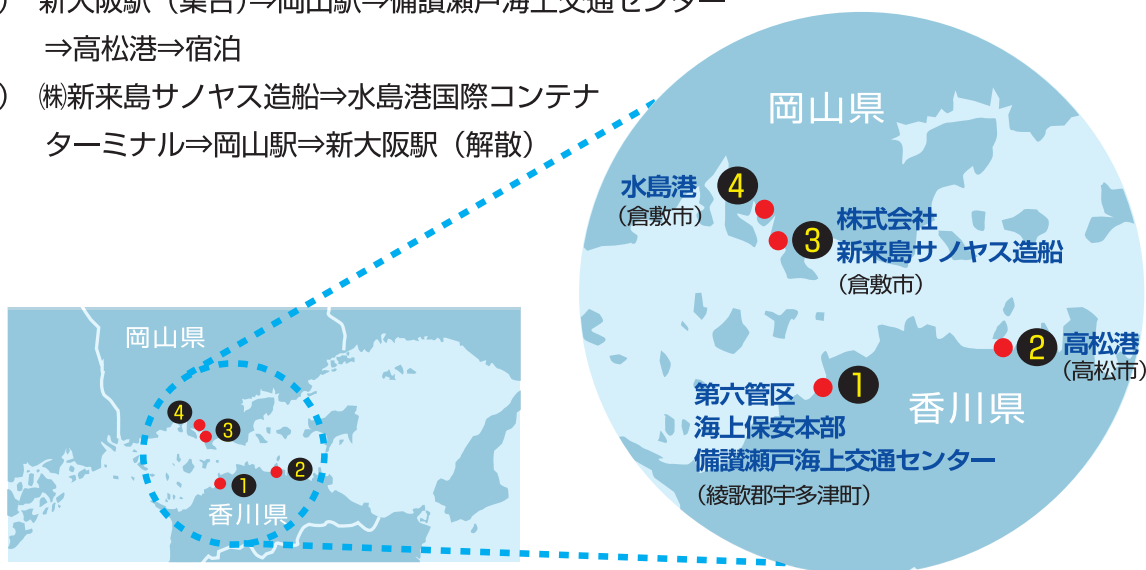
〈バイオ&サーキュラークラッカーイメージ図〉

他港視察(香川県高松港・岡山県水島港)を実施しました

(一社)大阪府港湾協会

令和6年11月7日(木)～11月8日(金)の日程で、香川県高松港と岡山県水島港を訪問しました。

- 11月7日(木) 新大阪駅(集合)⇒岡山駅⇒備讃瀬戸海上交通センター
⇒高松港⇒宿泊
- 11月8日(金) (株)新来島サノヤス造船⇒水島港国際コンテナ
ターミナル⇒岡山駅⇒新大阪駅(解散)



第1日目(11月7日(木))

① 第六管区海上保安本部 備讃瀬戸海上交通センター

●概要説明、意見交換、管制室内見学等

備讃瀬戸航路・水島航路・宇高航路を中心に船の安全に必要な情報提供・航路管制などを行い、船の事故を防ぐため、海上の交通整理が行われています。備讃海域は、事故多発地帯の一つとなっており情報提供サービスは、船舶の運航には大変重要となります。

管制室で、管制業務の説明や、情報提供方法などを実際に見学しながら説明を受けました。参加者様の日々の業務に隣接することが多く、興味深く話を聞かれている様子や、質問をされている様子が見受けられました。



概要説明の様子



センター屋上からの見学の様子



管制室での説明

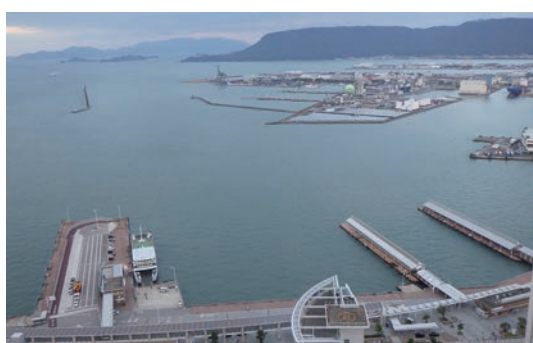
② 香川県 高松港

●香川県土木港湾課による概要説明、意見交換、現地（サンポート高松）視察等

本州や離島との海上交通の要衝の位置を活かした商港・観光港の機能のみならず、経済発展に伴う臨海工業地帯の開発と相まって工業港の性格をもつ港湾として発展してきた港です。近年は、ドライバー不足を背景にモーダルシフトが進む中で、フェリー輸送の拠点としても重要な役割を担っており、国際クルーズ船運航再開後、観光需要を取り込むための港湾整備や瀬戸内国際芸術祭2025の開催など、船と観光を結び香川観光の拠点として重要な役割をになっています。



概要説明の様子



展望台からの見学の様子

現地視察をした「サンポート高松」は、宇高航路の廃止後、港湾機能と都市機能が一体となった新しい都市拠点として整備され、JR 高松駅、高松シンボルタワー、JR ホテルクレメント高松、高松サンポート合同庁舎、高松港旅客ターミナルビルなどの大規模施設が立地している地区です。令和7年3月の開設に向けて香川県立アリーナの整備、JR 四国による駅ビルの建設、徳島文理大学の移転及び外資系最高級ホテルの誘致など、地区の魅力を向上させる計画が進められています。



第2日目（11月8日（金））

③ (株)新来島サノヤス造船

●概要説明、意見交換、現地視察等

バルカー及びタンカーの建造を得意とする歴史ある造船会社です。

船舶の建造、改造ならびに修繕を効率的に行われており、船舶用ガスタンクや大型鋼構造物を合理的に建造する生産機能も備えています。

技術開発においても、環境に優しい高効率、省エネルギー船の造船に取り組まれています。



概要説明の様子



造船所内を見学した際は、普段見ることのできない造船作業に参加者様も大変関心を持たれている様子でした。実際に技術者の作業風景を見ることができ、貴重な経験となりました。



建造ドック見学の様子

4 岡山県 水島港

●岡山県土木部港湾課による概要説明、質疑応答、現地（水島港国際物流ターミナル）視察等

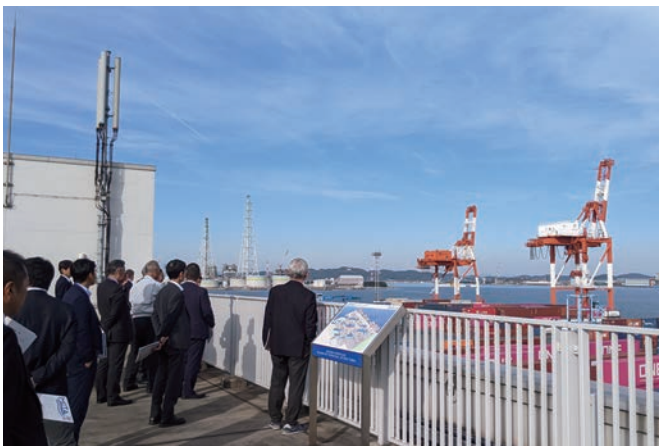
多様な産業が立地する水島臨海工業地帯の玄関として、その工業生産活動を日夜支えているとともに、現在では国際的な貿易港の役割も果たしています。平成23年5月に「国際バルク戦略港湾（穀物・鉄鉱石）」に選定されており、水島港の西日本における穀物の輸入拠点化が進んでいます。



概要説明の様子

現地視察をした、国際バルクターミナルは、サイロ会社、飼料工場、食品工場が立地する食料コンビナートが形成され、効率的に船から穀物をサイロ、飼料工場へ運べるよう運営されていました。

管理を任せられている、水島港国際物流センター(株)は、国際拠点港湾としては全国初となる港湾運営会社に指定され、水島港の港湾運営会社として、コンテナターミナル及び自動車ターミナルの管理運営を行い「創荷・集荷」、「水島港利用促進」に重点を置き、貨物量の更なる増加活動に取り組む会社として、岡山県の物流経済を堅実に支えています。



現地視察の様子

府営港湾の整備、振興に関する要望活動

(一社)大阪府港湾協会

府営港湾の整備や利用を促進するため、国土交通省本省港湾局、近畿地方整備局、近畿運輸局に対し当協会竹内会長より要望書を提出し、要望内容の趣旨説明や意見交換を行いました。

また、引き続き、海上保安庁大阪海上保安監部に対しても要望活動を行う予定です。

【要望事項】

1. 府営港湾の機能強化

- ①堺泉北港汐見沖地区夕風第2号岸壁の早期整備について
- ②堺北港堺2区の耐震強化岸壁の早期着手について
- ③阪南港阪南2区の臨港道路及び耐震強化岸壁の事業化について
- ④深日港洲本港航路再生への支援について
- ⑤「みたとオアシス」の本登録後の支援について

2. 安全・安心を支えるまちづくり

- ①「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」について

【要望先】

実施日 令和6年11月21日(木)

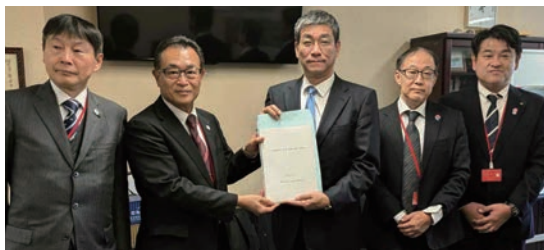
要望先 国土交通省 近畿地方整備局



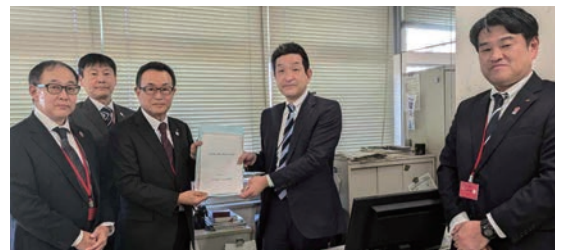
魚谷 憲 副局長

実施日 令和6年11月28日(木)

要望先 国土交通省 港湾局



稲田 雅裕 港湾局長



森橋 真 計画課長



工藤 健一 災害対策室長



久田 成昭 技術企画課長

【要望事項】

1. 深日洲本航路再生への支援について

【要望先】

実施日 令和6年12月17日（火）

要望先 国土交通省 近畿運輸局



池田 哲郎 次長



今後の要望活動予定

【要望事項】

- 1. 深日港の航路標識の維持について
- 2. 体験航海のための巡視船派遣の継続

【要望先】

実施日 令和7年1月30日（木）

要望先 海上保安庁 大阪海上保安監部



堺泉北港と細島港・宮崎港とのパートナーシップ港提携の覚書を締結しました！

大阪港湾局 計画調整部 振興課利用促進担当



(左:松山部長 右:丸山局長)



パートナーシップ港提携の覚書

田理事や足立利用促進担当部長、山本利用促進担当課長をはじめ、堺泉北港の港湾管理者である堺泉北埠頭(株)の下村代表取締役、両港間の RORO 船の定期航路を運航する八興運輸(株)の柚木取締役や川原大阪営業所長が加わった形で意見交換が行われ、将来的な貨物取扱量の拡大に向けて、より一層連携して取組を進めることが確認されました。

締結式後の10月24日(木)に東京で開催された「みやざき港湾セミナー」では、今回のパートナーシップ港提携が早速紹介され、また会場内には覚書が掲示されるなど、両港の協力関係を参加者に広く発信することができました。

今回のパートナーシップ港提携を契機に、今後の両港湾の更なる利用拡大に向けて、より一層連携したポートセールスに努めてまいります。

大阪港湾局は、令和6年10月8日(火)に、宮崎県県土整備部とパートナーシップ港提携に関する覚書を締結いたしました。

堺泉北港と細島港・宮崎港とは RORO 船(Roll-On・Roll-Off 船。貨物を積んだトラックやトレーラーが自走で乗り込んで運搬できる貨物用の船舶)の定期航路を有していることから、これまでも両港湾の担当者で連携したポートセールスを行うなど、都度協力しながら両港湾の取扱貨物量の拡大に取り組んでまいりました。

現在、我が国では「物流2024年問題」の解決策のひとつとして海上輸送の重要性が高まってきており、さらに、陸上輸送から環境負荷の小さい海上輸送への輸送手段の転換(モーダルシフト)は、脱炭素社会の実現にも寄与するものです。

こうした社会情勢を背景に、取扱貨物量の更なる増加に向けて両港湾の協力関係をより深化させることを目的として、このたび覚書を締結することとしました。

締結式当日は、宮崎県の桑畑県土整備部長が署名済みの覚書が同部の松山次長により大阪に持ち込まれ、丸山局長が署名するかたちで執り行われました。また締結式終了後は坂



締結式の様子

大阪港湾局泉州港湾海岸部の拠点集約のご案内

大阪港湾局 総務部 総務課企画調整担当

大阪港湾局では、令和6年4月1日（月）に泉州港湾・海岸部の組織を再編し、堺市と岸和田市に所在する庁舎の機能の多くを、泉大津市に所在する堺泉北港ポートサービスセンタービル（泉大津市なぎさ町6-1）に集約しました。

この度、堺市と岸和田市の庁舎に残っています機能を、令和7年4月頃をめぐり、堺泉北港ポートサービスセンタービルに完全に集約いたします。これにより、堺市・岸和田市の庁舎で対応していた港湾施設の使用許可等の業務は、令和7年4月以降は堺泉北港ポートサービスセンタービルで対応させていただきます。

今回の集約を通じて、より一層の港湾行政の推進に努めてまいりますので、ご理解ご協力をお願いします。

なお、日程につきましては詳細が決まり次第、府ホームページにてお知らせいたします。



大阪府ホームページ

《移転集約の地図》



大阪府職員等表彰(活躍職員等表彰)の受賞について

大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 事業企画・防災課事業企画・防災

令和6年11月15日(金)に環境農林水産部、都市整備部、大阪港湾局の職員からなる「南海トラフ巨大地震対策チーム」が、大阪府職員等表彰(活躍職員等表彰)を受賞しました。これは、南海トラフ巨大地震に備えるため、新・大阪府地震防災アクションプランで計画した全延長約34kmにわたる津波浸水対策を10年で完了し、災害に強いまちづくりに貢献したことが評価されたものです。



吉村知事による表彰状授与の様子

平成26年度から対策を進め、大阪北部地震等の不測の事態が生じる中で、計画通り、10年という短期間で大阪府が所管する全延長約34kmにわたる防潮堤基礎部の液状化対策や堤防のかさ上げを完了し、また、期間短縮策を講じた上で、これまで例のなかった規模で事業を進めるとともに、特別チームを設けて抜き打ち検査や第三者のチェックボーリング等による徹底した施工及び品質管理を行い、計画通りに地盤改良を終えました。

当該工事により津波による浸水被害を大幅に軽減した他、より多くの人の防災意識を高めるために、工事のイメージ模型・広報ビデオを作成し、地域住民への説明会で活用する等、府民への積極的な啓発に取り組みました。



知事と受賞者職員集合写真

大和ビジネス交流会に出展いたしました

大阪港湾局 計画調整部 振興課利用促進担当

令和6年11月8日(金)に大和高田商工会議所が主催されている、「大和ビジネス交流会」に大阪港湾局としてPRブースを出展いたしました。

参加者は奈良商工会議所に加盟されている、奈良県全域の企業様であり、他の出展ブースも保険会社から地元の食品製造業者など多様なブースが出展されており参加者との情報交換を交えた交流が行われました。

大阪港湾局のブースでは、興味を持たれた事業者様に、作成した内航フェリーやRORO船の定期航路地図や大阪港湾局の冊子・地図を用いて港の説明を行いました。万博をはじめとし、大阪“みなと”の利活用に興味をもっていただくことも多く大変貴重な交流の場となりました。



大阪港湾局出展ブース



商談の様子

隣の会場では、ビジネスに関する多様なセミナーが行われ、多くの参加者の姿がみられました。

今後も大阪港湾局では府市一体となって、大阪“みなと”の利用促進に寄与できるよう取組を続けてまいります。

高石市×マダガスカル マダガスカルフェア2024

高石市 総合政策部 まち未来戦略室産業共創課



高石市は、2025年に迫った大阪・関西万博に向け、内閣官房の「万博国際交流プログラム」にエントリーし、マダガスカル共和国との交流を実施しました。同プログラムは、大阪・関西万博を契機に、全国各地域において、地域住民と万博参加国・地域の関係者が、地方公共団体の事業を通じて継続的に国際交流していくものです。高石市出身の JICA 海外協力隊員の方がマダガスカルで活躍されていることもあり、マダガスカルとの交流を模索したところ、ウスビ・サコ大阪・関西万博協会副会長を通じて、かつては東洋一の海水浴場として栄えた歴史のある本市と同様、海に育まれた国“マダガスカル”とのマッチングが実現しました。

「帆船 BLUE OCEAN みらいへ」（以下、「帆船みらいへ」）は、特定非営利活動法人ゼリ・ジャパンが運航する一般の方が自由に乗船できる日本で唯一の大型帆船です。セイルトレーニングと合わせ海洋環境学習を行うなど、より身近に海と接する体験活動を通じて、地球市民として環境問題を考え、行動変容に繋げることをめざしています。さらに環境調査船としてマイクロプラスチックの海洋分布調査等も実施するなど、日本を代表する帆船として幅広い役割を担っています。また、帆船みらいへは、その発信力を活かして大阪・関西万博の魅力や理念への共感を伝える大阪・関西万博の「スペシャルサポーター」として、さまざまなプロモーション活動に参加しています。

今回のイベントは、“海”と“万博”にちなんだ高石市とマダガスカルの交流のために、高石市が延べ4日間にわたって開催した「高石市 × マダガスカル マダガスカルフェア2024」の第1日目として、令和6年10月5日（土）に堺泉北港に帆船みらいへを招致し、船内見学会と体験乗船、マダガスカル国際交流会を実施したものです。

体験乗船には、高石市、泉大津市、忠岡町から多数の応募があり、抽選の結果見事当選した方々が、堺泉北港の助松第6号岸壁を出航、堺泉北港内をクルージングしました。

クルージング中、船内では、マダガスカルの伝統楽器の演奏に合わせて、参加者と日本在住のマダガスカル人の方々が、いっしょにダンスを楽しみました。

参加者は、訓練船でもある帆船みらいへならではのセイルトレーニングにも挑戦。乗組員の「ツー・シックス・ヒーブ！」の掛け声に合わせてロープを引っ張り、帆を上げました。

サンセットのクルージングでは、美しい大阪湾に沈む夕日や、遠く完成間近の万博会場も見ることができました。

夜の部においても、セイルトレーニングを行い心地よい夜風に吹かれながら、高石市の工場夜景をいつもと違う海の上から満喫しました。日が暮れてからもマダガスカル人は元気いっぱい、トレーニング中も船の上は音楽や歌声が途切れることはありませんでした。下船時は、マダガスカル語の挨拶「ヴェルマ！」でお別れ。

堺泉北港は、普段は大型の貨物船などが出入りする港で、なかなか一般の方が来る機会はありませんが、日本の物流を担う重要な拠点です。今回のイベントは、大阪港湾局、周辺企業の方々の全面的な協力のもと、特別に実現することができました。今後も安全に配慮しながら、堺泉北港を身近で親しみのある港になるよう盛り上げていきたいと思います。



堺旧港社会実験「乙姫の休日 in堺旧港2024。」を実施しました

堺市 建築都市局都心未来創造部 ベイエリア推進担当

令和6年10月5日(土)、6日(日)の2日間、堺旧港の美しく整備された階段式の親水護岸や開放的な海辺を活かして、居心地の良い、憩いの交流空間を創出する社会実験「乙姫の休日 in 堺旧港2024。」を実施しました。今回で4回目となる社会実験では、南海本線堺駅から堺旧港へのアクセス改善の試行実施として堺旧港入口への視認性を確保するため案内ゲートやデザインパネルを設けて、来訪者を出迎えるようにしました。



当日は、護岸上にストリートファニチャー（仮設ベンチ・大型パラソル等）を設置するなど、憩い・レクリエーションの場の創出とキッチンカー等の仮設店舗による飲食の販売、音楽ステージでの生ライブ演出など、海辺のくつろぎ空間を創出しました。

また、「楽しいアクセス・回遊体験」として、e-バイクやロードバイク等の試乗による回遊体験やプレジャーボート乗船による水上回遊体験を実施しました。

乙姫の休日にあわせて、指定史跡である現地に現存する国内最古の洋式木造灯台となる旧堺燈台内部の一般公開や大阪港湾局による海上交通社会実験も実施され、期間中、約6,300人の方に来場いただきました。来場者に実施したアンケートでは、約9割の方が会場の居心地、飲食・物販、ミュージックに対して満足し、堺旧港を再訪したいとの回答をいただきました。

堺旧港は、南海本線堺駅から歩いてすぐの場所にあり、旧堺燈台や「乙姫さん」の愛称で知られる龍女神像など、歴史資源も多く存在しています。こういったポテンシャルを活かし、今年度、護岸背後地においてはカフェやレストランなどの商業施設誘致に向けた事業者募集を実施しています。また、2025年春には大浜北町市有地でホテル開業や歩行者デッキなどが全面供用され、大阪・関西万博期間中には堺旧港発着の定期航路も予定されています。今後も堺旧港が堺市内外からの来訪者を誘引する場所となり活性化するように進めていきます。

第85回九大港湾管理者港湾運営協議会開催

大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 施設管理運営課施設管理運営

堺泉北港において、第85回九大港湾管理者港湾運営協議会が開催されました。

九大港湾管理者港湾運営協議会は、国際拠点港湾14港により構成され、港湾の管理運営上の諸問題を研究、協議することにより港湾行政の円滑化及び近代化を図ることを目的としています。

本来であれば、伏木富山港（富山県）での開催でしたが、令和6年能登半島地震の影響により堺泉北港での開催となりました。

1日目の会議では、港湾施設の許認可規定や港湾運営など、各港が抱えている諸課題について議論が交わされました。また、国土交通省港湾局、近畿地方整備局にもご参加いただき、各議題に対してアドバイスをいただくなど大変有意義な会議となりました。

2日目の視察では、監視船兼旅客船「はまでら」に乗船し、堺泉北港・大阪港の海上視察を行いました。堺泉北港泉北地区では、夕風2号岸壁や汐見3号岸壁の工事状況や阪九フェリー、堺地区では、LNG運搬船や堺2区

基幹的広域防災拠点を、大阪港では、フェリーターミナルやコンテナターミナルをご案内し、それぞれの港を知っていただく良い機会となりました。また、大阪港の夢洲では「2025年大阪・関西万博」の会場を船上デッキからご覧いただき、普段見ることができない貴重な風景を写真に収める方々も多く、参加者から好評をいただきました。



会議の様子



海上視察 船内の様子



海上視察 船上の様子



集合写真

開催にあたりまして、国土交通省、泉大津市、万博推進局をはじめとする多数の皆様にご協力いただき、2日間にわたる九大港湾管理者港湾運営協議会を無事に終了することができましたことを併せてご報告いたします。

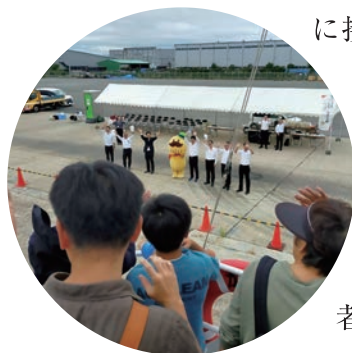
- ◆ 開催日：令和6年10月31日（木）・11月1日（金）
- ◆ 開催場所：堺泉北港ポートサービスセンタービル2階
- ◆ 構成港：苫小牧・室蘭・仙台塩釜・千葉・新潟・伏木富山・清水・四日市・堺泉北・姫路・和歌山下津・水島・広島・徳山下松
- ◆ 参加人数：31名
- ◆ 会議内容：○「港湾管理について」
説明：国土交通省港湾局総務課港湾管理高度化指導官 高橋 哲雄氏
- 議題協議
「危険物荷役許可について」
「港湾水域での飲食業及び宿泊業を目的とする占有許可について」
「遊漁船業法の改正に伴う海岸保全施設への立入に関する対応について」等
- ◆ 視察内容：堺泉北港及び大阪港の海上視察

巡視船による体験航海を実施しました

貝塚港湾振興会

海上保安庁より巡視船「かつらぎ」を派遣いただき、令和6年10月19日（土）に阪南港新貝塚埠頭から今年開港30周年を迎えた関西国際空港周辺までの体験航海を実施し、約100名の市民が参加されました。

参加者は巡視船での航海という貴重な体験に興味津々で、船内の見学や記念撮影をしたり、保安官の説明に聞き入るなど、船上での時間を楽しまれました。また、当日は多くの子どもたちが乗船し、子どもたちは、保安官の管理の下、船内設備に触れたり、日頃見ることのない海上保安官の職務に接し、興奮した様子で目を輝かせていました。



当行事は、市民にとって身近にある海に親しみながら、その安全を守る海上保安官の仕事について理解を深める貴重な機会となりました。岸和田海上保安署をはじめ、第五管区海上保安本部、大阪海上保安監部及び大阪港湾局等関係者の皆様方には、多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。

第51回「堺港まつり」を実施しました

堺港湾振興会

令和6年10月27日（日）に第51回「堺港まつり」を堺出島漁港「とれとれ市」会場で開催しました。当日は少し汗ばむ陽気の中、多くの方々にご参加いただき、大変賑わいました。

「堺港まつり」は、南蛮貿易などで発展した堺の港の歴史を市民の皆様を紹介し、海の恩恵に感謝し親んでいただくために毎年開催しています。

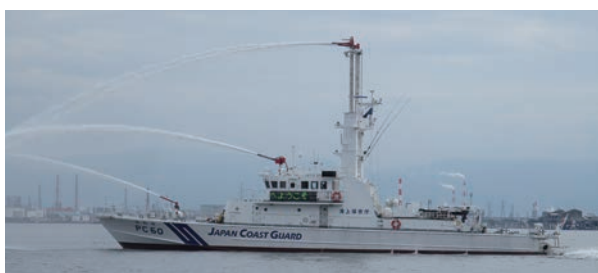


堺港湾振興会 堀畑 浩重 会長挨拶

堺海上保安署の巡視船「しぎかぜ」による巡視船体験航行や、漁船による堺港遊覧は毎年大好評です。乗船された皆様には、巡視船「みのお」による一齐放水や、（一社）大阪府清港会の清掃船「しらさぎ」の海上での展示、堺泉北港の美しい景色を楽しんでいただきました。

その他にも、ステージでは大道芸やバルーンショー、迫力ある和太鼓演奏などが行われ、会場は大いに盛り上がりました。まつりの最後を飾るビンゴゲーム大会では、阪九フェリー（株）泉大津支店様からご提供いただいたフェリー乗船券や多くの景品を用意し、秋のひと時を楽しんでいただきました。

今後も、堺市漁業協同組合連合会や堺海上保安署、堺税関支署、（一社）大阪府清港会をはじめ、多くの関係機関・団体のご支援・ご協力を得て、皆様により一層楽しんでいただける「堺港まつり」をめざしてまいります。



堺海上保安署巡視船「みのお」放水展示

岸和田港まつりを開催しました！

岸和田港振興協会(岸和田市 魅力創造部 産業政策課産業振興担当)



令和6年10月20日(日)に岸和田港まつりとして、咸臨丸(レプリカ船)の体験クルーズ、海上保安庁の巡視船「かつらぎ」の船内見学会を実施しました。

体験クルーズは、1便当たり約45分(全3便)で、各便定員の400人を超えるたくさんのご応募をいただき、岸和田市内(在住・在勤・在学)の方々に、港で活躍する船や港湾作業に使われる重機、大阪鉄工金属団地や木材コンビナートなど、岸和田の産業を支える港湾エリアを海の上から大迫力で観覧頂きました。

また、海上保安庁より6年ぶりとなる巡視船「かつらぎ」を派遣していただき、会場にて体験クルーズの参加者向けに船内見学会を実施しました。普段はなかなか見ることができない巡視船の内部構造や設備機能について乗組員さんから説明を受け、皆様興味深くご覧になっていました。

併設された海上保安庁のPRブースでは、イメージキャラクター“うみまる”君とのふれあいや海上保安官の制服(こども用)を着用しての記念撮影などが行われました。

当日は、秋晴れに恵まれ、オープニングセレモニーでは、主催者の岸和田港振興協会会長である永野岸和田市長からのご挨拶や、咸臨丸船長及び岸和田海上保安署長へ花束の贈呈を行いました。出航セレモニーでは、今回が初めての試みとなる色とりどりの紙テープと、白い鳩を青空に放ち、出航を祝福しました。

気持ちよさそうに潮風を浴びながら景色を楽しむご夫婦や記念写真を撮る親子、大はしゃぎする子どもたち、大人から子供まで幅広い世代の方々に、岸和田の海の魅力を満喫していただきました。

咸臨丸は1857年(安政4年)オランダで建造された蒸気帆船を復元したもので、普段は「うずしおクルーズ観光船」として淡路島～鳴門海峡で運航されています。船内には、1860年に咸臨丸に乗り、日本人として初めてアメリカへの太平洋横断を果たした勝海舟に関する展示や、近海に生息する魚の剥製などが展示されており、みなさま興味津々で見学されていました。

体験クルーズを終え、下船された皆様からは「はじめての経験ができた」「来年も開催されるならぜひ参加したい」というお声をいただき、非常に嬉しく思いました。

また、当日は大阪湾の新鮮な魚などが味わえる「第9回大漁!親子まつり」や、海や万博をテーマにした「KISHIWADA EXPO～泉州海の万博～」と同日の開催で、多くの地域の方々にご協力、ご参加をいただき、盛況のうちにイベントは無事終了いたしました。

市民の皆様には、岸和田の港湾エリアが持つ魅力を知っていただくとともに、岸和田港まつりを機に、海をより身近に感じていただきたいと思います。

皆様が、より海に親しんでいただけるよう、今後も引き続き岸和田港まつりをはじめとした港湾振興事業に努めてまいります。

港まつり開催にあたり、多くの関係機関の皆様のご支援・ご協力を賜りありがとうございました。



第22回魚庭(なにわ)の海づくり大会を開催しました

魚庭の海づくり実行委員会(大阪府/大阪府漁業協同組合連合会/地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所)

魚庭の海づくり実行委員会では、府民のみなさまに大阪湾の環境及び漁業への理解を深めていただくために、「美しく豊かな大阪湾をみんなの手で取り戻そう」を合言葉に、「魚庭の海づくり大会」を開催しています。今年度は、「大阪湾 輝く未来の漁業をデザイン」をテーマに、令和6年10月27日(日)に岸和田市立浪切ホール祭りの広場で第22回大会を開催しました。

オープニングセレモニーでは、大阪府立環境農林水産総合研究所 石井理事長の開会宣言につづき、大阪府漁連 岡会長及び大阪府 森岡副知事よりあいさつを行い、ご来賓の代表として岸和田市 永野市長様よりごあいさつをいただき、大阪府漁協青壮年漁業者連絡協議会 勝元会長より豊かな海づくり宣言を行いました。

【ステージイベント】

小学生及び中学・高校生を対象にした「第16回魚庭の大漁旗デザインコンクール」の表彰式、府内高校生約60名によるダンスパフォーマンス、大阪湾で獲れたキジハタを用いた「漁師鍋」の試食会、大学教授・海遊館職員らによる海のサイエンスショー、ゲストでお呼びした漁師 YouTuber はまゆうと大阪の漁師のトークショー、大阪湾に関するクイズ、ビンゴ大会を実施し、お子様から大人まで楽しんでいただけるイベントとなりました。

【ブースイベント】

海づくりに関連する活動を行っている環境関係団体等の活動展示、大阪産(もん)魚介類を使用した食べ物等の販売、お子様を対象とした縁日やキジハタ稚魚約1500匹の放流体験を実施しました。どのブースも大盛況で沢山の方に体験いただきました。

今後も大阪湾の漁業・環境の大切さや大阪産(もん)魚介類のおいしさを知っていただくため、来年度以降もイベント等積極的に参加できるよう取り組んでまいります。



「アコウ鍋」試食会の様子



稚魚放流の様子

海のワクワク学校(磯浜見学会)を開催しました

大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 施設管理運営課泉南管理担当/建設・施設保全課深日担当

令和6年9月20日(金)、せんなん里海公園内の淡輪・箱作海岸人工磯浜で、岬町立淡輪小学校4年生67名を対象に、磯浜見学会を開催しました。

当日は天気も良く、「しおさい楽習館」で大阪港湾局の仕事や大阪湾の魚の話聞いていただいた後に、人工磯浜でキジハタの稚魚の放流やタイドプールでの海の生物ウォッチングを体験していただきました。また、子供たちにアンケートを実施したところ、全員が「このような見学会の活動を続けてほしい。」という回答でした。

磯浜見学会に参加した子どもたちの笑顔を通じて、命の尊さや海の大切さを伝える活動を続けることが必要だと改めて感じました。

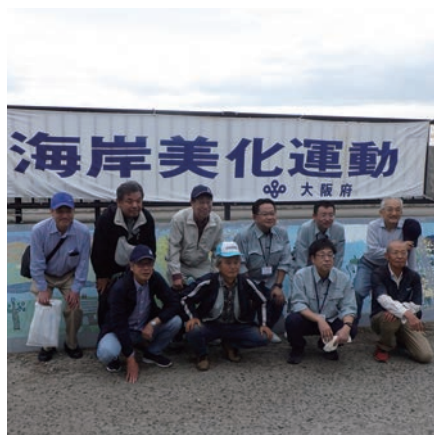


長松海岸美化運動を実施しました

大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 施設管理運営課泉南管理担当/建設・施設保全課深日担当

令和6年10月26日(土)に岬町の長松海岸美化運動を実施しました。当日は、岬町副町長も出席し、地元ボランティア団体、大阪府港湾・海岸ボランティア『さざなみ会』、付近住民のみなさん、岬町職員のみなさん等にご協力いただき、総勢67名で大阪府内に残る数少ない自然海岸である長松海岸をきれいにする事ができました。

今後とも、このような活動を継続的に行い、地元の皆様とともに、安全できれいな海岸づくりに取り組んでまいります。



ビジネス英語セミナー(基礎編)を開催しました!

堺泉北港港湾振興連絡協議会

令和6年10月21日(月)及び28日(月)の2日間にわたり、港湾関連企業を対象にビジネス英語セミナーを開催しました。講師として、株式会社イー・グローブの代表取締役社長である島村 東世子氏にお越しいただきました。

初日の「英文ビジネス E メールライティング」では、ビジネスでよく使われるフレーズや適切な丁寧表現を使った実践的なライティング法を習得いただきました。2日目の「英語で電話・ミーティング・交渉」では、電話での英会話スキルやミーティング・交渉を行うための基本的なコミュニケーションスキルを学んでいただきました。

参加者からは「実際の業務で活用できそうな、よく使うフレーズを中心に学ぶことができた」、「セミナー参加者同士で練習ができて、楽しく受講することができた」などのご感想をいただきました。



セミナーの様子(ロールプレイング)

ビジネス英語セミナー(応用編)に参加しませんか?

【日程】令和7年2月12日(水)「ビジネス英会話 初級～中級」、令和7年2月19日(水)「英語ビジネスプレゼンテーション」

【受付】令和7年1月31日(金)まで ※期限後も空き枠があればご参加いただけますので、事務局までお問合せください

【詳細】大阪府営港湾振興 Web サイト (<https://www.fship.or.jp/news/>)

【お問合せ先】電話 0725-21-7203 メール sakaisenboku@fship.or.jp

～基礎編を未受講の方もご参加いただける内容となっておりますので、ぜひご参加ください!～



堺泉北港港湾施設見学会においてRO-RO船の船舶見学会を実施しました

高石市 総合政策部 まち未来戦略室産業共創課

高石港湾振興会では、毎年、授業の一環として、市内小学校の4年生を対象に、大阪港湾局所属船舶「はまでら」に乗船しての堺泉北港の港湾施設見学を実施しています。今年度は、これまで行ってきた港湾施設見学に加え、新たな取り組みとして、大王海運株式会社にご協力をいただき、堺泉北港に寄港中のRORO船「第3はる丸」の船内見学会を実施することができました。



見学会は令和6年11月22日(金)に行われ、全7小学校中2校の4年生130名が、午前と午後に分かれて見学しました。送迎バスが岸壁に到着後、児童たちは、トレーラーがシャーシを曳いて乗船するスロープを歩いて乗船。船内に入ると、巨大な紙のロールが積まれたシャーシが整列しており、開いたシャーシで実際の貨物の様子が見学できました。甲板からは、堺泉北港の巨大なガントリークレーンやコンテナ船、対岸の高石市高砂が一望でき、ブリッジでは、船長から計器類や船の操作方法などの説明を受けました。また、特別に代表の児童が汽笛を鳴らすと、大きな音に児童全員から歓声があがりました。



今回、実際の物流現場で活躍するRORO船の内部を見学し、港湾や船舶、物流について生で体験できたことは、児童にとって忘れ得ない思い出になったことでしょう。今後も引き続き、見学会を実施し、児童たちが船舶や港湾、物流などに興味を持ち、その中から将来、港湾事業を支える担い手が誕生することを願っています。

令和6年度マレーシアでのポートセールス

大阪港湾局 計画調整部 振興課利用促進担当

大阪港湾局では、堺泉北港（公共ふ頭）の主力貨物である中古車の輸出台数増加を目指し、様々な取組を行っています。

今年度は、令和6年11月12日（火）から16日（土）の日程で、近年堺泉北港からの輸出台数が顕著に増加しているマレーシアへ、今後も堅調な輸出量をキープし、さらなる輸出拡大に繋げるべく、ポートセールスを行いました。

まず13日（水）の午前中に、ジェトロ・クアラルンプール事務所と、在マレーシア日本国大使館を訪れ、国内情勢や経済状況等について情報収集を行った後、同日午後、マレーシア車両輸入貿易協会（PEKEMA）を訪問しました。PEKEMAは、マレー系を中心とする先住民族を優遇する「ブミプトラ政策」によって、政府の発行する輸入許可証（AP）を協会メンバーに分配する権限を与えられており、会長や幹部と面会し、広い中古車保管ヤードを備えている堺泉北港のPR活動等を行いました。その後、PEKEMAメンバーである現地中古車ディーラーを訪問し、実際の販売現場や動向の視察を行いました。

翌14日（木）には、今年3月に大阪港湾局とMOUを締結した、ポートケランオーソリティを訪問。港の視察を行うと共に、今後、中古車に限らず、コンテナの取扱増加に向けても、さらなる関係強化すべく、連携していくことを確認しました。



中古車ディーラー

15日（金）には、中古車輸入許可証を発行している、マレーシア投資貿易産業省（MITI）を訪問し、堺泉北港の充実した中古車輸出体制をアピールしつつ、今後もAPの発行数は増加する傾向にあること、及び中古車市場や輸出量も拡大する方向性にある旨、確認することができました。

最後に訪問したマレーシア日本人商工会議所（JACTIM）は、マレーシアに進出する日本企業の約半数が加盟しており、今後も同国にてポートセールスを展開する上で、同協会の協力をとりつけることができました。

今回の訪問で、まだまだ同国への輸出の伸びしろはありと実感でき、各関係機関とも前向きな協力関係を得ることができました。今後も引き



ポートケラン会議中



ポートケラン集合写真

続き、協力関係を継続し、府市一体となって大阪“みなと”の利用促進に寄与できるよう、我々港湾局としてできることから、しっかりと取組を進めてまいりたいと考えています。



PEKEMA



MITI集合写真

堺泉北港・阪南港テロ対策総合訓練について

大阪港湾局 泉州港湾・海岸部 事業企画・防災課危機管理担当

堺泉北港及び阪南港の各港保安委員会（大阪港湾局、海上保安署、警察署等により構成）は、令和6年11月21日（木）に堺泉北港、令和6年11月26日（火）に阪南港でそれぞれ『テロ対策総合訓練』を実施しました。

本訓練は、両港において想定されるテロ事案に対し、有事の際の各機関における対応措置、手順等を確認し、事案対処能力の向上を図るとともに、関係機関相互の連携・協力体制を強化し、保安体制のさらなる深化を図ることを目的として毎年実施している訓練です。

この訓練では、内閣官房水際危機管理チームから、「堺泉北港（阪南港）に入港する貨物船にテロリスト関係者が乗船している可能性がある。」との連絡が入ったとの想定のもとで行われ、テロリストの入国及び不審物の持ち込みを水際で阻止するべく、各機関が連携して対応にあたりました。

海上では逃走する小型船を海上保安署の巡視艇と大阪水上警察署の警備艇が追跡し、連携して進路規制等を実施するとともに、テロリストから銃撃を受けながらも威嚇射撃を行い、テロリストの身柄を確保しました。

陸上では、大阪港湾局が出入管理強化を行い、着岸した貨物船の船内検索により発見された不審物や乗組員の手荷物について、大阪税関がエックス線車両を用いて検査を実施しました。その後、出入国在留管理局が入国審査を実施している最中に逃走を図ったテロリストや、制限区域内に侵入したテロリスト支援者らを警察官が制圧しました。

また今回は、大阪検疫所も実動訓練に参加する等、内容の充実した訓練が展開されました。

最後に、訓練に際しまして、タグボートを提供いただきました大阪府タグ事業協同組合をはじめ、関係機関の皆様にはご協力いただいたことに感謝申し上げますとともに、引き続き港湾保安対策へのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。



▲堺泉北港での開会式の様子



▲阪南港での開会式の様子



▲不審船への放水規制



▲不審船を連携して追跡



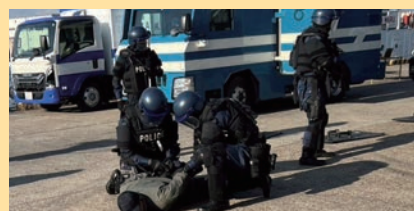
▲海上でのテロリスト制圧



▲警備犬による船内検索



▲乗組員の検疫及び検査



▲陸上でのテロリスト制圧

日立造船からカナデビアへ ～技術の力で人類と自然の調和に挑む企業グループへ～

1 日立造船はカナデビアへ

カナデビア株式会社堺工場

Kanadevia
Technology for people and planet

当社は、1881年に「大阪鉄工所」の名で創業し、以来、造船、鉄構、プラント、産業機械などへ事業を拡大してきました。1943年には商号を「日立造船株式会社」に変更しましたが、2002年には造船事業を分離し、現在では、「脱炭素化」「資源循環」「安全で豊かな街づくり」の分野で、グローバルにビジネスを展開しています。このたび、81年ぶりに商号を変更し、“技術の力で、人類と自然の調和に挑む”企業グループとして新たな歴史を築いていきます。「カナデビア (Kanadevia)」は、“奏でる” (日本語) と “Via” (道・方法という意味のラテン語) を組み合わせた造語です。多様性を尊重し、たゆまぬ技術革新により、オーケストラがハーモニーを奏でるように、人類と自然に調和をもたらす新しい道を切り開いていくという意味を込めており、創業以来の当社グループの歴史、企業理念およびブランドコンセプトから導き出したものです。

当社グループは、この「カナデビア (Kanadevia)」に込めた想いを全員で共有し、誰もが幸せを実感できる未来に向け、人類と自然が調和した社会を目指します。

2 カナデビアの歴史



E.H.Hunter portrait

当社グループの140年以上にわたる歴史は、1881年(明治14年)4月1日に英国人実業家エドワード・ハズレット・ハンターによって始まります。同氏は日本の海運・造船の将来性に着目し、「大阪鉄工所 (OSAKA IRON WORKS)」を創設しました。当時、国内の大手造船所の多くが政府からの払い下げを受けて造船業を興すなか、民間の外国人による造船所の創設は大きな挑戦でした。造船業から「脱炭素化」「資源循環」「安全で豊かな街づくり」にコア事業が移った現在においても、この「挑戦の精神」は生きています。私たちは行動規範の一つに「果敢に挑戦する」を掲げており、役職員一人ひとりが「サステナブルで、安全・安心な社会の実現に貢献するソリューションパートナー」をめざし、挑戦を続けています。ハンター氏は造船業を中心に産業育成を通じて日本の近代化に尽力しました。



大阪鉄工所(1881年)

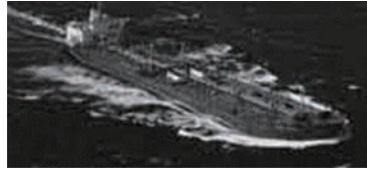
3. 堺工場の歴史

当社は1965年に超大型船の新造、新分野への開拓など、技術の集結を目的とした堺工場を発足しました。操業当初はタンカー船などの超大型船の新造を開始し、1969年には修繕の工場も新設しました。それから1979年までは造船、修繕などを主目的として操業を続けましたが、造船不況を受け、1979年以降は海洋構造物・修繕船専門工場へ転換しました。1980年代はこの時期の石油価格の高騰で需要が急増した石油掘削装置(オイルリグ)を中心とした海洋構造物と大型修繕事業で操業を続けました。1993年には新鋭大型鉄構工場を竣工し、関西国際空港連絡橋、明石海峡大橋の建造に携わり、2001年には世界初の浮体式旋回可動橋「夢舞大橋」を完成させました。2008年以降は各種産業機械、シールド掘進機専門工場を竣工し、堺工場として海洋構造物、水門、シールド掘進機、産業機械を製作する現在の堺工場の姿となりました。2011年にはシアトル向けに世界最大級となる17.45mの土圧式シールド掘進機を製作し、大型機械メーカー、大型鋼構造物メーカーとして業界を牽引しています。

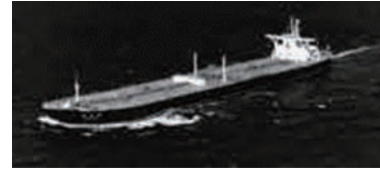
1965年 ● 大型船舶建造の工場として堺工場操業開始

タンカー船などを製作

1969年 ● 修繕船工場を新設



1973年 280型タンカー「ESSO OSAKA」



1970年 21万トンタンカー「海燕丸」

1979年 ● 海洋構造物・修繕船専門工場へ転換

オイルリグ等の海洋構造物を次々と製作

1993年 ● 新鋭大型鉄構工場を竣工

橋梁・水門関係を中心に海洋構造物を製作

(1995年 ISO9001取得) (2001年 ISO14001取得)



2001年 世界初の浮体式旋回可動橋「夢舞大橋」



2009年 ストーンカッターズ橋 (香港)

2008年 ● 各種産業機械、シールド掘進機専用工場を竣工

海洋構造物・水門、シールド掘進機、産業機械を製作



2011年 シアトル向け世界最大級土圧シールド掘進機

時代はカーボンニュートラルへ

浮体式洋上風力発電システム（浮体部分）を製作



2019年 NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究 (バージ型)「ひびき」

2024年 ● 日立造船堺工場 → カナデビア堺工場へ

4. 堺工場の設備、製品の紹介

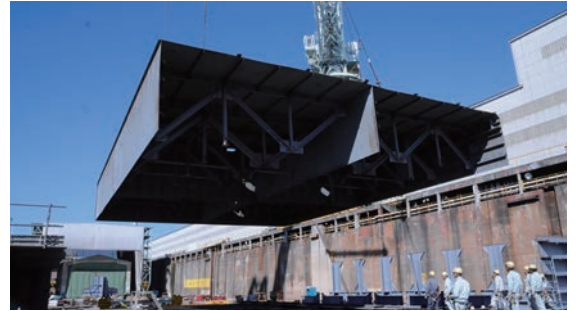
堺工場は多数の NC 機械、溶接ロボット、工作機械設備などを導入し、徹底した自動化・機械化を図っています。また、CAD / CAM システムの導入、生産情報のリアルタイム管理など、高度な生産性と高品質の製品づくりに努めています。作業環境面にも配慮した一貫生産工場です。工場は大きく4つに分けられ、鋼材を切断、曲げ、溶接・サブ組立を行う「製缶工場」、工作機械を用いた機械加工を行う「機械工場」、シールド掘進機などを組立て試運転を行う「組立工場」、大型の鋼構造物を組み立てる「ドッグ (2号、3号)」で構成されます。



組立工場



製缶工場



2号ドック

機械工場で所有する機械として、立方体の底面以外の5面に対してフライス加工やミーリング加工、ドリル穴加工やボーリング穴加工が可能な「プラノミラー」、最大直径16mまでの製品を回転させながら外径や内径を削る縦旋盤加工が可能な「ターンミラー」、シールド掘進機や水門などを加工する際に使用する13.5m×4.5mの範囲で製品の側面全体を加工できる「床置横中ぐり盤」などがあります。



プラノミラー

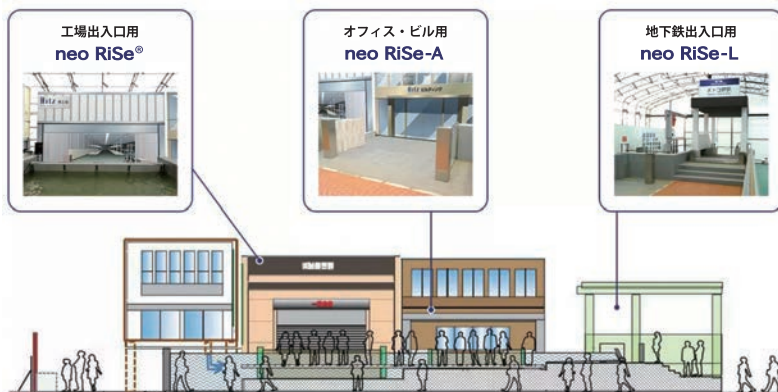


大型ターンミラー



横中ぐり盤

また、堺工場には防災ソリューションラボラトリーがあり、陸上設置型フラップゲート式可動防波堤 (No energy, No operation, Rising seawall の頭文字をとった通称 neo RiSe) が展示されており、その作動をご覧いただけます。neo RiSe はその名前の由来のとおり、電力などのエネルギーや人の操作を全く必要とせず、水が押し寄せてくると自動的にゲートが立ち上がる防波堤です。展示されている neo RiSe は3種類あり、工場の入り口に設置するゲートの耐荷重が高いタイプ、オフィス・ビルの景観を損なわないように外観に合わせて製作されるタイプ、地下鉄・地下街などの入り口に設置されるタイプがあります。工場見学と併せてこちらの見学も可能です。



フラップゲート式可動防波堤

堺工場では大型の鋼構造物の製作が可能で、ダムや河川の水を制御するダム用・河川用ゲート、水力発電所まで水を運ぶ水圧鉄管、地下空間を作り出すためのトンネルを掘るシールド掘進機、沈埋工法による海底トンネルの本体となる鋼とコンクリートの大型ハイブリッド構造物の沈埋函、港湾・漁港の護岸・岸壁設備に数多く採用されている鋼とコンクリートの合成構造のハイブリッドケーソンなど、幅広い製品の製作に取り組んでいます。その他、近年カーボンニュートラルを目指す社会において注目を浴びている風力発電事業において、堺工場では浮体式洋上風力発電の基礎製造に力を入れており、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）より2024年6月に採択された「グリーンイノベーション基金事業／洋上風力発電の低コスト化」プロジェクトにおける「愛知県沖浮体式洋上風力実証事業」のコンソーシアムの1社として参画しています。同事業では、浮体式基礎の低コスト化、量産化を目的として検討を進め、セミサブ型浮体式基礎を堺工場で製造する予定です。



河川用ゲート



水力発電所向け水圧鉄管



シールド掘進機



沈埋函の出渠状況



ハイブリッドケーソン



セミサブ型浮体式基礎イメージ

5. 大阪湾と生きる堺工場

前述のとおり、堺工場は造船のための新工場として設立されました。造船業の特性から、立地面やその地帯の形状を考慮して、大阪湾の中でも堺港の臨海工業地帯に建設することとなりました。操業以降、造船時代はもとより、浮体式旋回大橋や海底設置型フラップゲート、海洋構造物など船を使って出荷することも多く、堺工場は大阪湾とともに生きてきました。

私たちは大阪湾に感謝しつつ、大阪湾をきれいに保つために毎年大阪湾クリーンアップ作戦にも参加しています。その年の新入職員に参加してもらうことで、大阪湾と我々のつながりを次世代に継承しています。今後も大阪湾を大切にして大阪湾とともに生き、大阪湾から出荷される当社の製品が様々な地域で、地下で、海で活躍できるように頑張っています。

堺の海から全国へ『安心』『安全』を運びます

関西港湾サービス株式会社

▶ はじめに

この度は、「大阪府のみなと」へ寄稿のお話を頂き有難うございます。この機会に「どんな仕事？」と聞かれ家族にも伝わりにくい“タグボート事業”について、縁の下の力持ちとして貢献しているんだよという目線で皆様にお伝えできたらと思います。

▶ 歩み

弊社は1963年（昭和38年）6月24日に設立され、今年で67周年を迎えます。初代社長の井内三次は神戸商船大学を卒業後、外航船の乗組員となり、その後北海道大学で水産学部の講師を10年勤めあげました。それから海上保安部の警備救難部長に就任となり定年を迎えることとなります。海を愛し、これまでの経験を生かすべく、海上の物流に不可欠な曳船業と堺の港の発展を願い「関西港湾サービス株式会社」を設立いたしました。しかし、会社経営は初めてでノウハウを全く知らずゼロからのスタートでした。当初は16名と少人数での開業でしたが、八幡製鐵株式会社堺製鐵所（現日本製鐵株式会社）と曳



船及び港湾関係業務を受託し、新たに「堺営業所」の開設に至りました。その後、昭和40年には大阪ひき船協会（現大阪府タグ事業協同組合）が設立され、同業者が加入しタグ事業を取りまとめるべく事業発展へと繋がります。また、井内三次は昭和51年、公共的な業務に長年にわたり従事して功労を積み重ねたと『瑞宝章』を受章いたしました。

1986年（昭和61年）関西国際空港建設工事に伴う海上警戒業務、明石海峡大橋建設予定地での現地水理実験に関わる海上作業を受託し、徐々に事業を広めていく中、1993年（平成5年）2代目社長の井内哲義にバトンタッチとなります。

大阪港や堺泉北港における船舶代理店業務、関西国際空港第2期工事に伴う警戒業務を受託、海上共同防災業務、内外航船の綱取作業及び繫離船作業などタグボートや小型船の活躍の場を広げていきました。

2019年（令和元年）これまで築き上げてきた全てを3代目社長の井内義之が受け継ぐこととなり現在に至りますが、就任して間もなく世界中が先の見えない暗闇へと引きずり込まれた“新型コロナウイルス感染症”の感染拡大に脅かされる事態となりました。まずは、社内感染を防ぐべく対策を整え海上物流が滞りなく行えるよう徹底し、特に大きな影響もなく業務を遂行できたと思います。



▶ タグボート事業

昭和40年「新若丸」（280馬力）購入に始まり、その後1,000馬力から2,000馬力を有するタグボートを建造、就航する事となり、創立10周年を迎える昭和48年には新造船曳船「こんごう丸」（3,200馬力）の就航に至りました。現在では、4,000馬力を有する高馬力船から500馬力の小型船まで計6隻のタグボートを所有しております。港に出入りするV L C C等の超大型船から大型内航船は、自力で岸壁に離着岸できないため、馬力あるタグボートや綱取作業船の活躍により安全な入出港へと導きます。

なかなか想像できないかとは思いますが、身近なもので、軽自動車に大きなエンジンを積み、20トンもの大型トラックを押したり引いたりといった感じでしょうか。

この他に、高性能な曳航設備と内航資格を有する大型タグボート、そして熟練された技術と経験を備えた乗組員により、起重機や浚渫船、台船等を安全且つ迅速に全国各地へと曳航しています。これまで、エンジントラブルのため航行不能となった長さ約400mものコンテナ船を紀伊水道から和歌山沖まで曳航することとなった際には、波風のある中ホバリング（定点保持）にととも苦勞したそうです。また、徳島南部自動車道・徳島沖津から徳島津田間に流れる川に橋を架けるため、多度津港（香川県）から明石海峡を経て徳島港へと高速道路の構造物を曳航する作業にも携わりました。

この他、海難事故等のサルベージ作業や阪神淡路大震災、東日本大震災発生時には給水・物資支援等のための出動も行ってきました。建物崩壊、道路寸断の状況から、必要な物資を迅速に届けるには空輸あるいは海路を使って送る手段がとられます。被災地の想像を絶する状況を目の当たりにしながら、できる限りと何度も往復し物資支援に励んだとのことでした。

こういった様々な経験が受け継がれ、技術の向上へと繋がりお客様のニーズに合わせたサービスを提供しています。



▶ 繋離船作業

タグボート事業を広めていく中で、入出港時に必要な“繋離船作業”も請負うことになります。

大きな船が岸壁に近づくと船の船首と船尾から数本のロープが海面へ下ろされます。このロープを小型作業船が受取り岸壁でスタンバイしている陸上作業員に手渡し、岸壁に係留するためロープを引っ張りビツ



ト（岸壁上にある鉄製突起物）に掛けます。最後に船上で垂れたロープをウインチ（ロープの巻き上げ機）で張り詰めて船を固定します。そして、船を岸壁から放す時には固定していたロープを船上から緩めます。船の合図により岸壁の作業員がビツトから手動でロープを放し、船は巻き取っていきます。船を岸壁に繋ぐ、そして離すという一連の作業を「繋離船作業」と称し、「綱取り、綱放し作業」ともいいます。



この作業は、危険を伴う作業となります。船から降ろされるロープは重く、海水に浸かることも多々あり更に重みが増します。このロープを5、6人が力を合わせて、息を合わせて作業を行わないと事故や大怪我につながってしまう作業です。暑さ、寒さ、雨、強風と様々な気候の中での作業となりますが経験豊富な作業員が的確な指示を行い、安全第一を常に心掛け日々業務に励んでいます。

▶ 海上防災

堺・泉北地区海上共同防災組織からの委託により、タグボートに油回収システムを搭載した油回収船「せんしゅう」や、オイルフェンスを迅速に展開する為のオイルフェンス展張船2隻を365日24時間体制で配備しています。長年にわたり、「一般財団法人海上災害防止センター」の契約防災事業者として、航行中の事故によるオイル漏れや積み荷の石油・有害液体物質等の海上流出事故に対応できるよう作業員の育成、定期的に行う訓練を実施し有事の際、万全の体制が取れるよう備えています。時には、オイルフェンスでの対応だけではなく油処理剤やオイル吸着マット等を使い手作業で油まみれになりながら回収作業を行ったりします。



▶ 船舶代理店業務

1971年（昭和46年）当時の興亜石油株式会社における船舶代理店業務の受託を皮切りに、岩谷産業株式会社や大阪ガス株式会社（現 Daigas ガスアンドパワーソリューション株式会社）等、代理店業としての拠点を広めていくこととなりました。



主な業務は、外国船の入出港時に、船会社と代理店業を請負った事業所との打合せ業務、各関係官庁との手続きなどを代行に行います。現在では、堺泉北港に限らず北は大阪北港から、南は阪南港まで広範囲に渡って出向き業務を遂行しています。

船舶代理店業務は、お客様のニーズに沿うよう“迅速・丁寧・確実”をモットーに、日々業務に励んでおります。

▶ 未来に向けて

地球温暖化が進み、近年増え続けている自然災害に対し如何に備えるかが課題となりますが、家族・社員・会社を守り、そして『堺のみなと』、『日本のみなと』を守るよう関西港湾サービスとして何ができるか今後も追求し続け成長していければと考えます。

昨年（令和6年）に、本社社屋の内装を全面リフォームし、社員同士のコミュニケーションを図れる部屋や応接・会議室の増設など社内環境を充実させ日々業務に励んでおります。より快適な職場環境となった今、気持ち新たに今後も『安心』『安全』をお届けできるよう邁進いたします。

日本で最初の長距離フェリー会社です

阪九フェリー株式会社泉大津支店

〇はじめに

弊社、阪九フェリーは1968年(昭和43年)に神戸(魚崎)～北九州(小倉)へ日本で初めて長距離フェリー(フェリー＝人や貨物、自動車等を同時に輸送出来る船)の運航を始めた会社です。

グループ会社には、新日本海フェリー(舞鶴・敦賀・新潟・秋田～小樽・苫小牧)、関釜フェリー(下関～韓国・釜山)、東京九州フェリー(北九州(新門司)～神奈川(横須賀))もあり、北海道から九州、また海外へも網羅しております。安全、安心、快適、環境にやさしいをテーマに、大阪(泉大津)～北九州(新門司)、神戸(六甲アイランド)～北九州(新門司)へ16,000トン級の船を毎日2便運航しております。今回、この誌面をおかりし、日本初の長距離フェリー誕生から半世紀が過ぎ、創業者の思いやこれからのフェリーに求められる事等について、皆さまにお伝えできればと思っております。

〇日本初の長距離フェリーの誕生

今では日本各地に多くの長距離フェリーが運航しています。当時は阪神～九州間に高速道路はつながっておらず、国道2号線が唯一阪神と九州を結ぶ道路でした。新幹線も東京～新大阪間は開通していましたが、新大阪～博多間が全線開通したのは昭和50年。この様な状況の中、創業者の“入谷豊州(いりたにとよくに)”は混雑する道路事情やトラック輸送の急増を問題視し、阪神～九州間を、車両と人を同時に輸送出来るフェリーの就航実現に向け動き始めました。今では当たり前聞く「フェリー」と言った言葉も当時は一般的ではなく、全てが前例のない事からのスタートとなりました。

阪九フェリーの就航と後の成功事例がビジネスモデルとなり、日本各地に長距離フェリー網が開設され始めます。創業者の入谷豊州は、阪九フェリーの就航間もなく、国際航路の関釜フェリー、関西～北海道航路の新日本海フェリーを設立し、就航させています。



「フェリー阪九」要目 就航1968年(昭和43年)8月

総トン数:4,978トン
全長:127.7m
全幅:22.4m
航海速力:18.2ノット
旅客定員:1,200名
車両積載台数:トラック70台・
乗用車70台

日本初の長距離フェリー「フェリー阪九」

○船出と追い風

阪九フェリーは、1968年(昭和43年)、当時は「海のハイウェイ」とも評され華々しい船出となりました。この様な背景の中1970年(昭和45年)に大阪万博が開催され、日本中から多くの方々が大阪に詰めかけ、弊社にとっても大きな追い風となりました。同年9月、11月にそれぞれ新しいフェリーが2隻就航。毎日2便体制となり利用者も更に増加しました。

また1970年(昭和45年)をさかいに、海運各社は長距離フェリーの開設を始め、日本各地に長距離フェリーの航路が開設されていきます。後に景気の波にのまれる等、消滅・合併や統合した航路も多い中、弊社は就航から55年以上航路を維持しております。

○阪神・淡路大震災

実際に体験された方々も多いと思いますが、1995年(平成7年)1月17日の早朝に、あの阪神・淡路大震災が発生します。弊社は当時、神戸(六甲アイランド)と大阪(泉大津)の2港を拠点として北九州(新門司)へ運航していました。朝のニュースで、阪神高速道路の高架が壊れ、バスが高架から落ちそうになっている映像、長田町の火災等の壊滅的な神戸の状況が映し出されてきました。

幸い、大阪の港は壊滅的な被害がなく、弊社の神戸に向かっていたフェリーは急遽行先を大阪へ変更し泉大津港へ着岸しました。発災当日は、弊社フェリー以外にも神戸に到着予定であった、大分からの「ダイヤモンドフェリー」(現・フェリーさんふらわあ)と高松からの加藤汽船(現・ジャンボフェリー)も急遽、弊社の大阪港へ入港。しかし港の作りが他社フェリーの入港を想定していなかった為、車両は下船できず、希望する旅客のみが下船し、残りの乗船していたお客様はそのまま、発港へ戻って行きました。

神戸に勤務していた社員の安否や神戸港の被害状況が分るのは少し日にちが経ってからとなりますが、幸い社員の安全は確認する事が出来ました。しかし、神戸の被害は大きく当面船を運航出来る状態ではありませんでした。

神戸航路を休止し、大阪航路へ集約。1995年(平成7年)8月に神戸港が仮復旧した事で1便のみ、神戸港の運航へ戻しています。震災の影響で神戸付近の陸上ルートが寸断された状態となり、山陽新幹線も一時期は、新大阪から博多方面は運休を余儀なくされていました。この間、人流・物流において、フェリーは大きな役割を果たし、海上輸送、フェリーの重要性が再認識されました。



六甲アイランド ①



六甲アイランド ②



六甲アイランド ③



震災復興を願って「We Love Kobe」

1000円高速の逆風



高速休日上限千円による渋滞

フェリー業界にとっては残酷な時代でした。この様な中、2011年（平成23年）3月11日に、あの「東日本大震災」が発生します。阪神・淡路大震災の際同様、「東日本大震災」を通じ海上輸送の重要性が再認識され、2012年（平成24年）民主党政権の崩壊により高速道路無料化の話は消滅し、今に至っております。日本は周りを海に囲まれておりこの様な災害時には海上ルートもしくは空路が物資の輸送等には有効であり、フェリーは一度に多くの物資も運ぶ事が出来、輸送ルートとしてなくてはならない乗り物です。

2009年（平成21年）当時の民主党が「高速道路無料化」をかかげており、この政策に対抗するかのごとく、自民党が「休日1,000円高速」を開始。弊社の阪神～九州間の航路には、中国自動車道、山陽自動車道が並走しており、フェリーの利用者は減少し、大きな打撃を受けました。後に民主党政権になって、高速道路無料化への実証実験等が始まり、利用者の減少に歯止めはかかりませんでした。この政策の為、どのフェリー会社も航路を維持できず、弊社は、減便や身を削る改革で何とか耐える事が出来ましたが、いくつかの会社は消滅しております。

阪九フェリーのこれから

就航当初の交通事情は、冒頭にも記している通り、新幹線も高速道路も開通していない時代に就航しています。現在は、新幹線はもちろん、高速道路も中国自動車道・山陽自動車道も開通し、格安航空会社（LCC）、高速バスと、就航当時とは比べものにならない程交通網が充実しています。利用者は選択肢が増え、使い分けができる時代となりました。この時代の変化が当社のフェリーにも表れています。就航当初のフェリーは、総トン数4,982トン・定員1,195名と言った要目でした。今就航しているフェリーは、総トン数16,292トン・定員663名となっています。船が大型化された事で、車両の積載量は飛躍的に増加しております。但し、旅客定員は船の大きさに反比例し減少しています。就航当初は時代背景もあり一度に沢山の旅客を運ぶ事が優先されていましたが、交通網が充実した現在では、利用者が自身のニーズに合った交通機関を選択する様になりました。それぞれの交通機関には特長があり、フェリーの特長は「旅客と車両」を一緒に輸送出来ると言った事です。この点については他の交通機関との競合もなくフェリーの強みの一つです。また、フェリーを利用する利用者にも変化があらわれており、利用者は、ただ移動するだけに乗船するのではなく、船に対し快適さを求める様になりました。この結果、フェリーの部屋はホテル並みに向上し、更に個室も多くなりました。弊社のフェリーには露天風呂や展望室を設置しており、以前よりパブリックスペースも増加していますので、船内の快適性が向上し好評を頂いております。弊社の航路は瀬戸内海になりますので、揺れが少なく静かな船旅が特徴です。フェリーの船旅は移動（交通費）と宿泊（ホテル代）を兼ね備えておりコスパの高い乗り物です。



船名「せつつ」ロイヤルルーム(プライベートデッキ付)・露天風呂

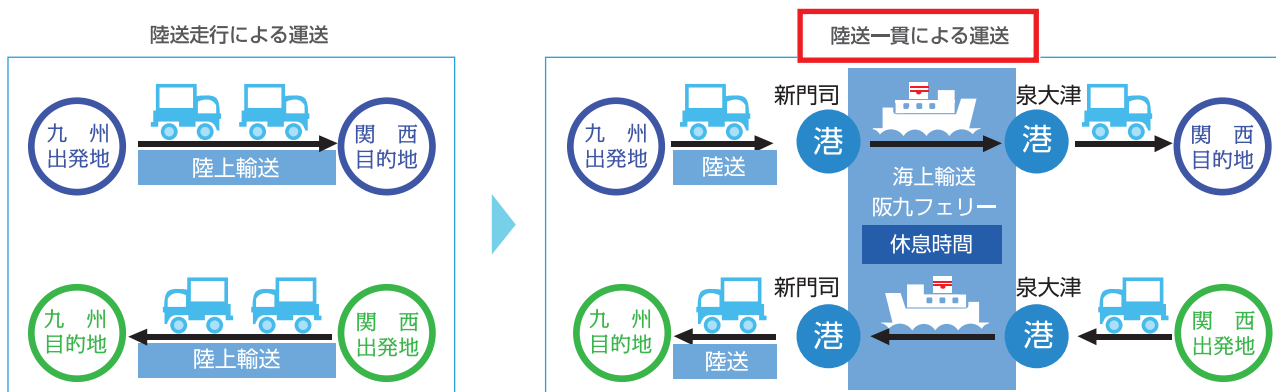


近年、業界をとりまく問題が大きく2つあり、1つ目が環境問題です。環境問題においては、船は船舶からの排気ガス中の硫黄酸化物（SOx）を低減する事が2020年より実施されています。この要件をクリアする為には、規制に適合した燃料を使うか、除去する為の装置を備えている必要があります。船会社としては大幅なコスト増となりました。その他環境面では、トラック等で行われている陸上貨物輸送を、環境負荷の少ない船舶や鉄道の利用へ転換する事（モーダルシフト）を国土交通省から推奨されフェリーの利用は環境面でも見直されています。

2つ目が2024年問題と言われた「働き方改革関連法」です。トラック業界では運転手の高齢化、運転手不足が深刻化する中、更に2024年4月より、運転手の年間の時間外労働時間が960時間に制限されました。一人あたりの走行距離が短くなり長距離で物が運べなくなる事が問題視されました。この問題解決策のひとつとして、トラックの無人航送や移動しながらも運転手が休める（船に乗船中の運転手は休憩時間としてカウントされる）フェリーは注目されています。これからのフェリーは、旅客では快適さの追求と非日常空間の提供、輸送面では輸送量を充実させたフェリーと定時制の確保、運転手への快適な休息場所の提供が重要になっています。これからも利用者のニーズに答える事ができ、信頼を頂ける企業として成長し続けていきたいと思っております。

2024年問題の対応策

時間短縮や環境問題の改善策「モーダルシフトシステム」



「せっつ」「やまと」要目
 総トン数: 16,292トン
 全 長: 195m
 全 幅: 29.6m
 航海速力: 23.5ノット
 旅客定員: 663名
 車両積載台数: トラック196台・乗用車188台

2022年就航の最新鋭船

専門知識を持った
社員が
丁寧にサポート

輸出入、海外送金等、
多様な外為業務に
対応

海外現地法人の
口座開設・
資金調達に対応

充実した
関西みらい外為
Webサービス



アジアを中心とした海外ビジネスに関する
ご相談はお気軽に弊社までお問い合わせくだ
さい。



関西みらい銀行



ボウリング カラオケ 団体予約承ります!!



泉大津フタバボウル

〒595-0072
泉大津市松之浜町1-2-53

ホームページ

ボウリング 0725-22-8128 カラオケ 0725-33-8920



南海 松ノ浜駅より徒歩2分

無料駐車場67台完備

送迎バス有(要予約)



泉大津港湾振興会

会 長 南出 賢一 (泉大津市長)
 副会長 森本 護 (大一機工(株)専務取締役)
 副会長 中林 政一 (藤原運輸(株)大阪支店 統括営業部長)
 副会長 中田 憲正 (堺泉北埠頭(株)相談役)

〒595-8686 泉大津市東雲町9-12
 泉大津市政策推進部 地域経済課内
 TEL. 0725 (51) 7651 FAX. 0725 (32) 6000



ENEOS

ENEOS株式会社 堺製油所

〒592-8550 大阪府堺市西区築港浜寺町1番地

大阪府タグ事業協同組合

理事長 奥野 通清 副理事長 田村 啓造
 副理事長 戸村 鋭治 専務理事 西口 栄一

泉大津市なぎさ町6番1号 きららセンタービル8階
 TEL.0725(31)0521 FAX.0725(31)0578

構成組員

| | | |
|--------------|-----|-------|
| 関西港湾サービス株式会社 | 社 長 | 井内 義之 |
| 内海曳船株式会社 | 社 長 | 安本 浩之 |
| 日東タグ株式会社 | 社 長 | 神本 貴司 |
| 三洋海事株式会社 | 社 長 | 小磯 潮 |
| 日本海事興業株式会社 | 社 長 | 中西 勝己 |
| 株式会社武丸海運 | 社 長 | 吉嶺 武強 |
| 昭陽汽船株式会社 | 社 長 | 戸村 鋭治 |
| 日本栄船株式会社 | 社 長 | 田村 啓造 |

貝塚港湾労働者福祉センター内にて

みんなの **テッペン**
食堂 営業中!

お気軽にお立ち寄りください!

貝塚港湾振興会

会 長 酒 井 了 (貝塚市長)
 副会長 東 村 一 夫 (貝塚商工会議所会頭)
 副会長 仙 波 美智代 (奥本製粉(株)代表取締役社長)

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17番1号
 貝塚市都市整備部都市計画課内
 TEL.072(433)7246 (直通)
 FAX.072(433)7511 (代表)



2024年10月1日、日立造船はカナデビアに社名変更しました。

カナデビア株式会社 堺工場 大阪府堺市西区築港新町 1-5-1

岸和田港振興協会

会長 永野 耕平（岸和田市長）
〒596-8510 岸和田市岸城町7-1（岸和田市魅力創造部産業政策課内）
TEL:072(423)9618 FAX:072(423)6925



堺港湾振興会

会長 堀畑 浩重（阪南倉庫(株)代表取締役社長）
副会長 井内 義之（関西港湾サービス(株)代表取締役社長）
副会長 上西 浩（堺市産業振興局長）

〒592-8332 堺市西区石津西町26 堺市港湾事務所内
TEL.072(244)7368
FAX.072(244)3496

港湾地域における円滑な物流活動を支援すること
を通じて社会に貢献していきます。

埠頭運営事業

青果事業

上屋賃貸事業

中古車ストックヤード賃貸事業

シャーシプール賃貸事業

緑地運営事業

堺泉北埠頭株式会社

SAKAI SEMBOKU WHARF CO.,LTD.

〒595-0055 泉大津市なぎさ町6-1
堺泉北港ポートサービスセンタービル9F
TEL.0725(20)2270 FAX.0725(20)2281



堺青果センター 〒590-0987 堺市堺区築港南町12番地
TEL.072(222)0391 FAX.072(232)1241



汐見埠頭協議会

会長 角野 錦吾 (朝日海運株式会社)

副会長 甲斐 信之 (間口運輸株式会社)

副会長 佐々野 健二 (山九株式会社)

泉北港港運協議会

会長 衣畑 拓也 (中谷運輸株式会社)

〒595-0075 泉大津市臨海町2丁目1 泉北5区港湾労働者福祉会館内

TEL 0725(21)4377 FAX 0725(21)4377

高石港湾振興会

会長 畑中 政昭 (高石市長)

副会長 山内 和彦 (高石商工会議所会頭)

副会長 篠原 宏敬 (株式会社上組大阪支店堺出張所長)

〒592-8585 高石市加茂4丁目1番1号 高石市総合政策部 まち未来戦略室 産業共創課内

TEL 072(265)1001 FAX 072(263)8143



旅客 ご予約・お問い合わせ
乗用車 0570-01-8989

トラック 新門司…093-481-6681
神戸…078-857-1223
泉大津…0725-22-6361



チケットレスで、スムーズに。



高品位尿素水

AdBlue®

日本製

AdBlue製造・販売メーカー

- ☆1kℓタンク 無償貸与!
- ☆ガンホースセット無償提供(5m迄)
- ☆給水時にタンク内の汚れチェックします!
- ☆定期給水等も承ります!
- ☆大阪以外の都府県も極力対応致します。

面談希望の方は06-6753-5918へ
お気軽にご連絡ください。

65円!!

/1ℓ (税別)
※給水の場合

泉大津埠頭株式会社

代表取締役社長 **南出 賢一**

〒595-0055 泉大津市なぎさ町6番1号
TEL.0725(33)6851 FAX.0725(33)4425

海・陸 一貫くらしを支えます!



大阪運輸株式会社

本社 〒559-0013 大阪市住之江区御崎6-3-1
TEL.(06)6682-8808(代表) FAX.(06)6682-8818
URL. <http://www.osakaunyu.jp/>



大阪府水難救済会

会長 **高田 威**

〒592-8332 堺市西区石津西町26 堺市港湾事務所内
TEL.072(244)7368
FAX.072(244)3496

美しく安全な港を

堺泉北港及びその周辺海面の清掃等を行い、
航行船舶の安全と環境の向上に努めています。
※新規会員の申込を受け付けています。

一般社団法人 大阪府清港会

会長 **鈴木 隆**
〒592-8331 堺市西区築港新町4丁3番地
TEL.072(244)7571 FAX.072(247)1314

THE BEST FROM THE WORLD

— いいものを世界から —

服飾事業・不動産賃貸業・営業倉庫業

株式会社 **カワサキ**

<https://www.kawasaki-corp.co.jp> 【上場コード 3045】

本社 〒595-0814 大阪府泉北郡志岡町新浜2丁目9番10号
TEL.072-439-8011 FAX.072-439-8013

大阪支店・東京支店

南海本線 泉大津駅前 **ホテル レイクアルスター** アルザ泉大津



一品一品に旬の息吹にあふれた素材をふんだんに取り入れ、
職人が腕をふるう本格会席料理でおもてなし致します。

●ご宿泊・ご宴会予約、承ります●

TEL.0725-20-1121 FAX.0725-23-1959



曳船業・海上防災業・船舶代理店業・繋離船業

関西港湾サービス株式会社

代表取締役社長 **井内 義之**

本社 / 〒590-0974 堺市堺区大浜北町3丁4番2号
TEL 072(238)3965 FAX 072(238)3968

- 軽水炉(PWR/BWR)用原子燃料の開発・設計及び製造
- 軽水炉(PWR/BWR)の炉心管理サービス
- 新型炉HTRその他研究炉用燃料
- 原子燃料サイクル関連技術開発
- 原子燃料関連検査装置等の設計、製作



ペレット君



原子燃料工業株式会社

本社 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央四丁目33番5号 TEL 045-500-6310
 熊取事業所 大阪府泉南郡熊取町朝代西1丁目950番地 TEL 072-452-3901
 (泉大津工場) 泉大津市河原町7番5号 TEL 0725-22-3363
 大阪営業部 大阪府西區土佐堀一丁目3番7号 TEL 06-6443-0628



東証プライム上場企業

住まいと暮らしを より快適により便利に



近畿・東海・関東・
東北・中国・四国・
九州地区に
ネットワークを
展開中。

コーナン商事株式会社 コーナンホームページアドレス <http://hc-kohnan.com>
 本部: 〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原2丁目2番17号 TEL 06-6397-1621(代)

コスモ石油株式会社 堺製油所

〒592-8331

大阪府堺市西区築港新町三丁目16番地

TEL : 072-245-8551 FAX : 072-245-1249

URL : <http://www.cosmo-oil.co.jp>

「ありがとう」の気持ちがか社の名前です。

サンキュウ SINCE1918. 物流で世界を結ぶ

山九株式会社 泉北支店

港湾運送事業 輸出入海貨代理店業 倉庫業 国際複合一貫輸送業 船舶代理店業
 国内外海上輸送業 国内陸上輸送業 航空貨物取扱業 建設業

支店 堺市西区浜寺石津町東2丁目3-30 TEL.072(243)3900(代)
 泉北港事務所 泉大津市夕見町111-5 TEL.0725(33)0539
 泉北物流センター 堺市西区築港新町2丁目6-8 TEL.072(243)0039
 助松物流センター 泉大津市小津島町6番7 TEL.0725(23)7239
 関西ケミカルセンター 高石市高砂2-1 TEL.072(268)3909

物流のあらゆるニーズにお応えいたします！

一般港湾運送事業・貨物運送取扱業・倉庫業・通関業
 海運代理店業・梱包請負業・港湾荷役・損害保険代理業



新洋海運株式会社

代表取締役社長 稲葉 徹志

本社: 〒590-0954 大阪府堺市堺区大町東1丁目1番10号
 TEL: (072) 238-1161 FAX: (072) 223-4050
 URL: <http://www.shin-yo.co.jp/>

支店: 南港・泉北 事業所: 塩浜・大浜・桑名・宮崎
 営業所: 東京・博多 海外現地法人: ベトナム・タイ

大阪府公安委員会 第62000413号 (一社) 大阪府警備業協会会員



安心・安全・信頼 真心のサービスを提供 第一警備保障株式会社

代表取締役社長 阪本 敦史

〒595-0055 泉大津市なぎさ町2番10号
 TEL 0725-33-6787
 FAX 0725-33-7649

海陸複合一貫輸送により物流戦略をサポートします。
 RORO船定期航路利用によるモーダルシフトの促進



大王海運株式会社

代表取締役社長 岩井 正実

ISO9001:2008認証取得 ISO14001:2004認証取得

〒102-0071 東京都千代田区富士見二丁目2番5号 飯田橋メインビル
 TEL.03-3261-6815 FAX.03-3261-7310

港湾運送業 倉庫業 建設業 通関業



Daito Co., Ltd.

LOGICAL & DYNAMIC

株式会社 大都

代表取締役社長 間口 豪

〒552-0022 大阪市港区海岸通2丁目1-11
 TEL.06-6574-0125 <https://www.daito.biz/>

HARMONY & SINCERITY SINCE 1902



中谷運輸株式会社

代表取締役社長 中谷 庄司朗

〒552-0022 大阪市港区海岸通1丁目5番22号
TEL.06-6572-5021 FAX.06-6574-1023



HAKKO
ひなた

通関・海陸一貫輸送業

八興運輸株式会社

〒595-0074 大阪府泉大津市小津島町4番地
TEL.0725-90-5385 FAX.0725-90-5485



間口運輸株式会社

創業 明治34年

代表取締役社長 間口 敦生

港湾運送事業 港湾荷役事業
倉庫業 通関業

〒552-0021 本社 大阪市港区築港2丁目8番34号

「大阪府のみなと」への ご意見・ご感想及び広告の募集



(一社)大阪府港湾協会では「大阪府のみなと」への皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

併せて「大阪府のみなと」への広告掲載も募集しております。

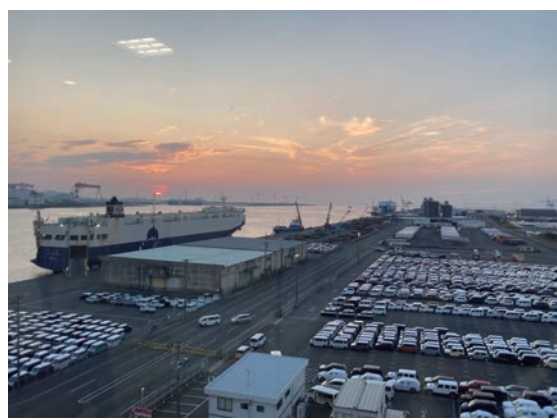
頂いた広告は会員情報欄に掲載します。

ご意見・ご感想や広告掲載に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

(一社)大阪府港湾協会

住所: 〒595-0055 泉大津市なぎさ町6-1 堺泉北港ポートサービスセンタービル10階
TEL.0725-20-0690 FAX.0725-21-7259 E-mail: kyoukai@fship.or.jp





先進港視察



(一社) 大阪府港湾協会

～ 新規会員募集のご案内 ～

(一社) 大阪府港湾協会は府営港湾各港の振興対策の推進、府域の産業経済の発展と府民生活の向上、並びに沿岸市町の都市基盤整備に寄与することを目的とする一般社団法人です。

大阪府営港湾の振興の一環として、会員企業・団体の皆さまに各種セミナーのご案内(参加無料)や会報誌『大阪府のみなと』の広告掲載など、日頃の業務にお役立ていただけるサービスを実施しております。

会員向けサービス

- 総会記念講演会
- 各種セミナー
大阪みなとセミナー 等
- 先進港視察 開催
★視察先一例
(令和6年度)
 - ・第六管区海上保安本部 備讃瀬戸海上交通センター
 - ・香川県高松港 ・(株)新来島サノヤス造船
 - ・岡山県水島港
- (令和5年度)
 - ・千葉県木更津港
 - ・神奈川県横須賀港
- (令和4年度)
 - ・愛知県三河港
 - ・フォルクスワーゲングループ ジャパン(株) 本社視察
- 会報誌『大阪府のみなと』
府営港湾に関わる様々なニュースやイベントを掲載しております。
(無料配布・年3回発行)



【会費】

1口1万円～(年間)

【お問合せ】

(一社) 大阪府港湾協会 事務局
 〒595-0055
 大阪府泉大津市なぎさ町6番1号
 堺泉北港ポートサービスセンタービル10階
 Tel 0725-20-0690 Fax 0725-21-7259
 E-mail kyokai@fship.or.jp

【公式ホームページ】

アドレス <https://www.fship.or.jp/>
 (大阪府営港湾 WEB サイト Friend & Ship)

会員名簿

| | | | |
|-----------------------|------------------------|--------------------------------|----------------------|
| (株)アイ・エー・エー | 関西電力(株) 堺LNGセンター | 泉南市 | 阪南港運(株) |
| 朝日海運(株) | 関西トランスウェイ(株) | (一社) 全日検 大阪支部 | 阪南市 |
| (株)アテックス | (株)関西みらい銀行 | 泉北港港運協議会 | 阪南倉庫(株) |
| イースタン・カーライナー(株) 泉北営業所 | 関西木材(株) | 大一機工(株) | 阪和流通センター大阪(株) |
| 泉大津港湾振興会 | 岸和田港湾荷役(株) | 第一警備保障(株) | 広道商店 |
| 泉大津市 | 岸和田市 | (株)大運 | 藤原運輸(株) |
| 泉大津商工会議所 | 岸和田商工会議所 | 大王海運(株) | (株)不動テトラ 大阪支店 |
| 泉大津埠頭(株) | 岸和田港振興協会 | Daigasガスアンドパワーソリューション(株) 泉北製造所 | 平和オート(株) |
| 泉大津マリン(株) | (特非)紀泉地域21総合整備協議会 | (株)大都 | (株)ベスト・プロパティ |
| 泉佐野市 | 共立梱包(株) | (株)大日警 大阪営業所 | 豊国石油(株) |
| 泉佐野商工会議所 | 共和海建(株) | 大和運輸(株) | POSCO Japan PC(株) |
| 一心港運(株) | (公社)近畿海事広報協会 | 高石ケミカル(株) | (株)北海鉄工所 |
| 岩谷液化ガスターミナル(株) | 近畿港運(株) | 高石港湾振興会 | 北港運輸(株) 南大阪支店 泉南センター |
| 岩出建設(株) | (株)クリエイション | 高石市 | (株)眞壁マテリアル |
| (株)エヌティーシー | (株)栗本鐵工所 堺工場 | 高石商工会議所 | 間口運輸(株) |
| E N E O S (株) 堺製油所 | K H ネオケム(株) 堺物流センター | (株)武丸海運 | (株)松菱 |
| 大阪運輸(株) | ケイヒン海運(株) | 田尻町 | 丸一鋼管(株) 堺工場 |
| 大阪運輸倉庫(株) | 原子燃料工業(株) 熊取事業所 | 忠岡町 | 丸全昭和運輸(株) 関西支店 |
| 大阪機船(株) 南海支店 | (株)合通ロジ | (株)辰巳商会 | 丸全昭和運輸(株) 堺泉北支店 |
| (一財)大阪港湾福利厚生協会 | 鴻池運輸(株) | 田中土建(株) 大阪南合材センター | 丸紅エネックス(株) 堺ターミナル |
| 大阪製鐵(株) 岸和田工場 | コーナン商事(株) | チヨダウーテ(株) 貝塚工場 | 岬町 |
| 大阪船主会 | コスモ石油(株) 堺製油所 | (株)土田組 | 三井化学(株) 大阪工場 |
| 大阪府 | (株)サウスポイント | (株)Dear Laura | 三井金属パーライト(株) |
| 大阪府漁業協同組合連合会 | 堺港湾振興会 | D I C (株) 堺工場 | 港通船運輸(株) |
| (一社) 大阪府清港会 | 堺市 | 東亜建設工業(株) 大阪支店 | 南大阪埠頭(株) |
| 大阪府タグ事業協同組合 | 堺商工会議所 | 東洋建設(株) 大阪本店 | (株)やまと |
| (公財)大阪府都市整備推進センター | 堺泉北港湾砂利石材協同組合 | (株)東洋信号通信社 | (株)ヤマモト鉄工所 |
| (一財)大阪府マリーナ協会 | 堺泉北船舶安全協議会 | 内海曳船(株) 堺出張所 | 郵船港運(株) |
| 大阪府みなと友好倶楽部 | 堺泉北埠頭(株) | 内外輸送(株) 大阪支店 | U B E (株) 堺工場 |
| 大阪府ヨットセーリング連盟 | (株)堺ポートサービス | 中谷運輸(株) | (株)横河ブリッジ |
| (一社) 大阪木材コンビナート協会 | 栄運輸工業(株) | (株)西村運輸倉庫 | (株)吉田組 大阪支店 |
| 大阪湾広域臨海環境整備センター | 阪口倉庫(株) | (株)日新 阪神支店 | ライオン(株) 大阪工場 |
| 大豊運輸倉庫(株) | 阪本薬品工業(株) 泉北工場 | 日鉄物流(株) 関西支店 | (株)ONE CROSS |
| (株)オーナミ 関西事業部 | 櫻井工業(株) 製材所 | 日東タグ(株) 阪神本部 | |
| 奥田数(株) | (株)さくらコーポレーション 泉大津支店 | 日東物流(株) 大阪支店 | |
| 奥本製粉(株) | 山九(株) 泉北支店 | 日本製鉄(株) 関西製鉄所 | |
| 貝塚港湾振興会 | 産業振興(株) 西日本営業部 関西営業所 | 日本製鉄(株) 瀬戸内製鉄所 阪神地区(堺) | |
| 貝塚市 | 三興倉庫(株) | 日本通運(株) 大阪国際輸送支店 | |
| 貝塚商工会議所 | 三洋海事(株) | 日本栄船(株) | |
| 梶野産業(株) | サンワールド(株) | 日本海事興業(株) 神戸・大阪営業所 | |
| 金澤運輸(株) | 汐見埠頭協議会 | 日本酢ビ・ポパール(株) | |
| カナデビア(株) 堺工場 | 新関西国際空港(株) | 日本振興事業協同組合 | |
| 要薬品(株) | 新関西製鐵(株) | 日本トランスシティ(株) 大阪支店 | |
| 兼杉興業(株) | 伸共運輸(株) | 船用商事(株) | |
| (株)上組 大阪支店 堺出張所 | 新洋海運(株) | 畑野工業(株) | |
| (株)カワサキ | (株)スバルロジスティクス 関西納整センター | 八興運輸(株) | |
| 関空泉大津ワシントンホテル | (株)住友倉庫 | (株)PALTAC | |
| 関西港湾サービス(株) | センコー(株) 南大阪支店 | パレ・フタバ(株) | 令和7年1月1日現在 |
| 関西電力(株) 火力事業本部 | 泉州トラック事業協同組合 | 阪九フェリー(株) 泉大津支店 | 会員 180 団体 |



高石市×マダガスカル マダガスカルフェア2024(令和6年10月5日)

一般社団法人

大阪府港湾協会

FRIEND & SHIP
大阪府港湾振興Webサイト



〒595-0055 大阪府泉大津市なぎさ町6番1号 TEL.0725-20-0690

印刷発行／令和7年1月
※乱丁はお取り替え致します。